

広報資料

# マツダ 会社概況 2010

MAZDA COMPANY PROFILE 2010

90<sup>TH</sup>  
ANNIVERSARY

om-zoom  
zoom-zoom



mazda

# はじめに

## 企業ビジョン（1999年12月制定）

マツダは1999年、「企業ビジョン」を制定しました。「企業ビジョン」は、「Vision（企業目標）」、「Mission（役割と責任）」、「Value（マツダが生み出す価値）」の3つの要素で構成され、マツダとマツダの社員が目指すもの、その役割と責任、それをどのような価値観をもって達成するのかを表しています。

### Vision

新しい価値を創造し、最高のクルマとサービスにより、お客様に喜びと感動を与え続けます。

### Mission

私たちは情熱と誇りとスピードを持ち、積極的にお客様の声を聞き、期待を上回る創意に富んだ商品とサービスを提供します。

### Value

私たちは誠実さ、顧客志向、創造力、効率的で迅速な行動を大切にし、意欲的な社員とチームワークを尊重します。環境と安全と社会に対して積極的に取り組みます。そしてマツダにつながる人々に大きな喜びを提供します。

## マツダブランドシンボル（1997年6月制定）

「自らをたゆまず改革し続けることによって、力強く、留まることなく発展していく」というブランドシンボル制定のマツダの決意を、未来に向けて羽ばたくMAZDAの M の形に象徴しています。



## マツダコーポレートマーク（1975年制定）

1975年のCI（Corporate Identity：コーポレート・アイデンティティ）導入を機に、コミュニケーションの核となる企業シンボル（マツダシンボル）として制定しました。その後、1997年のブランドシンボル制定に伴い、可読性を生かした「マツダコーポレートマーク」と位置づけています。

mazda

## 「マツダ」の由来と意味

社名「マツダ」は、西アジアでの人類文明発祥とともに誕生した神、アフラ・マズダー（Ahura Mazda）<sup>えい ち</sup>に由来します。この叡智・理性・調和の神を、東西文明の源泉的シンボルかつ自動車文明の始原的シンボルとしてとらえ、世界平和を希求し自動車産業の光明となることを願って名付けられました。それはまた、自動車事業を始めた松田重次郎（じゅうじろう）の姓にもちなんでいます。

## マツダのブランドメッセージ “ Zoom-Zoom（ズーム・ズーム）\* ”

\*日本語の「ブーブー」（車が動くときの音）を意味する英語

マツダ独自の創造性と革新性で、子どもの時に感じた動くことへの感動を愛し持ち続ける人々に、「心がときめくドライビング体験」を提供したいというマツダの想いを示した言葉です。

## 目 次 Contents

はじめに .....	1	経営計画 / 技術開発長期ビジョン .....	23
会社の概要と実績 .....	3	環境への取り組み .....	24
役員 .....	5	安全への取り組み .....	25
主な子会社・関連会社 .....	7	社会貢献活動 / 社員への取り組み .....	26
研究開発 .....	9	フォードとの関係 .....	27
地域別の活動		製品名の由来 .....	28
日本 .....	10	社歴 .....	29
北米 .....	13	製品一覧 .....	33
欧州 .....	15		
中国 .....	17		
アジア・大洋州 .....	19		
カリブ・中南米・中近東・アフリカ .....	21		

## 最新情報について

「会社の概要」および「役員」に関する情報に変更があった場合、最新の情報を下記URLのホームページにて掲載します。

URL: <http://www.mazda.co.jp/corporate/profile/outline/library.html>

## その他の情報開示ツール

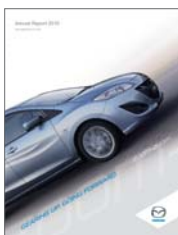
会社概況に加えて、以下のツールでもマツダの考え方、活動、データの情報開示をしています。



サステナビリティ  
レポート2010  
マツダのCSR  
(企業の社会的責任)に  
ついての報告書

<http://www.mazda.co.jp/csr/download/>

8月末に発行予定です。



アニュアルレポート  
2010  
マツダの投資家向け  
年次報告書

<http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/library/annual/>



有価証券報告書  
2010年3月期

[http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/library/s\\_report/](http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/library/s_report/)



# 会社の概要と実績

## 会社概要

(2010年3月31日現在)

社 名	マツダ株式会社(英訳名: Mazda Motor Corporation)
会 社 設 立	大正9年(1920年)1月30日
本 社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号
代 表 者	代表取締役会長 社長兼CEO 山内 孝
主な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売など
株 式	発行可能株式総数 3,000,000,000株 発行済株式総数 1,780,377,399株 株 主 数 79,444名
資 本 金	186,499,736,762円
従 業 員 数	単体 男性: 20,284名 女性: 1,762名 合計: 22,046名(出向者を含む) 連結 合計: 38,987名
研究開発拠点	本社、マツダR&Dセンター横浜、マツダノースアメリカンオペレーションズ(米国)、マツダモーターヨーロッパ(ドイツ)、中国技術支援センター(中国)
生 産 拠 点	国 内: 本社工場(本社、宇品)、防府工場(西浦、中関)、三次事業所 海 外: 米国、中国、台湾、タイ、フィリピン、ジンバブエ、南アフリカ、エクアドル、コロンビア
販 売 会 社	国 内: 270社 海 外: 128社(2009年12月31日現在)
主 要 製 品	四輪自動車、ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、ロータリーエンジン、自動車用手动/自動変速機

## グローバル生産(暦年)

(台)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
グローバル	1,243,006	1,307,468	1,289,530	1,349,392	984,520
国 内	864,929	966,547	995,511	1,078,690	717,175
海 外	378,077	340,921	294,019	270,702	267,345

## グローバル販売(暦年)

(台)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
グローバル	1,260,504	1,286,147	1,335,147	1,351,294	1,160,975
国 内	286,885	269,220	254,137	244,623	204,370
北 米	336,206	349,793	382,768	348,923	281,439
欧 州	271,558	306,698	311,247	339,969	256,426
中 国	133,778	126,063	101,900	127,846	179,679
その他	232,077	234,373	285,095	289,933	239,061

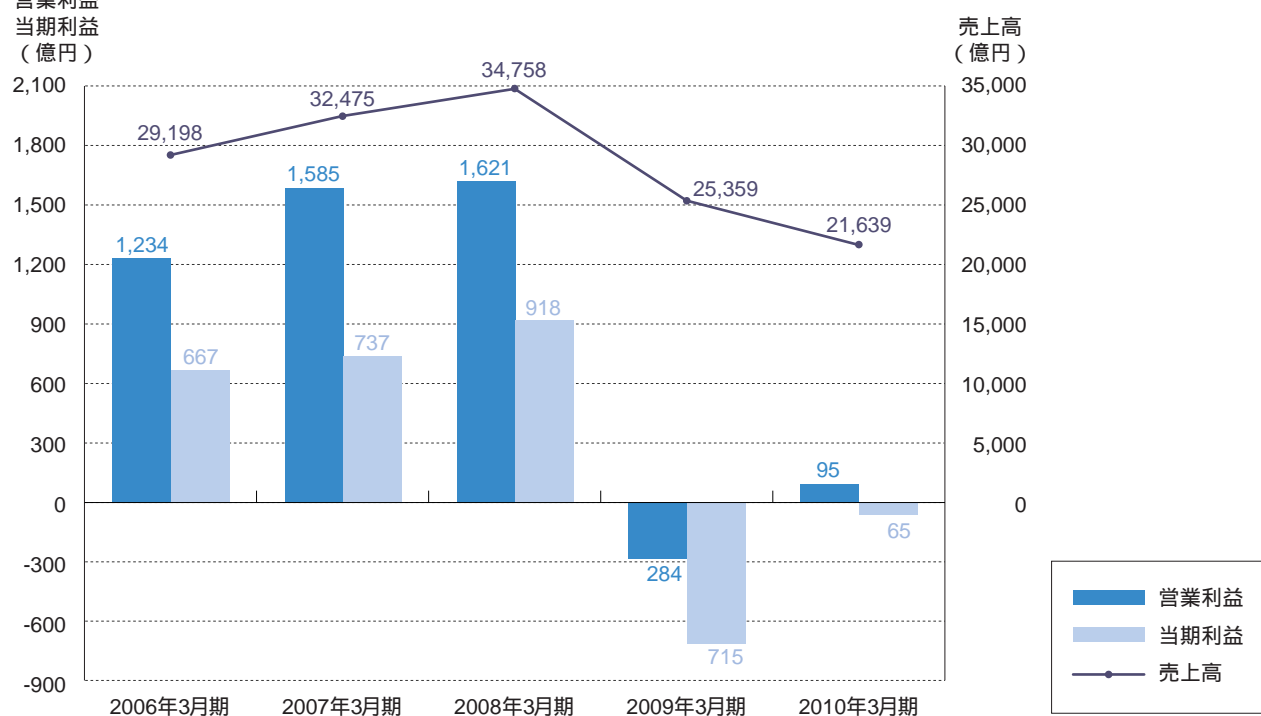
## 最近の業績( 連結ベース )

項目	単位	2006年3月期 ( '05.4 ~ '06.3 )	2007年3月期 ( '06.4 ~ '07.3 )	2008年3月期 ( '07.4 ~ '08.3 )	2009年3月期 ( '08.4 ~ '09.3 )	2010年3月期 ( '09.4 ~ '10.3 )
売上高	国内 ( 億円 )	8,877	8,873	8,801	6,203	5,750
	海外 ( 億円 )	20,321	23,602	25,957	19,156	15,889
売上高	( 億円 )	29,198	32,475	34,758	25,359	21,639
営業利益	( 億円 )	1,234	1,585	1,621	284	95
経常利益	( 億円 )	1,015	1,278	1,485	187	46
税引前当期利益	( 億円 )	1,175	1,185	1,431	513	73
当期利益	( 億円 )	667	737	918	715	65
1株あたり当期利益	( 円 )	51.53	52.59	65.21	52.13	4.26
設備投資額	( 億円 )	721	796	755	818	298
減価償却費	( 億円 )	458	470	665	752	764
研究開発費	( 億円 )	957	1,076	1,144	960	852
総資産	( 億円 )	17,887	19,078	19,856	18,010	19,478
純資産	( 億円 )	4,072	4,799	5,542	4,147	5,098
有利子負債残高	( 億円 )	4,554	4,747	5,050	7,534	7,221
純有利子負債残高	( 億円 )	2,468	2,322	2,811	5,326	3,758
フリーキャッシュフロー	( 億円 )	336	210	102	1,292	674
生産台数	国内 ( 千台 )	904	967	1,047	899	828
	海外 ( 千台 )	380	338	279	235	316
	( 千台 )	1,285	1,306	1,326	1,134	1,144
販売台数	国内 ( 千台 )	285	261	256	219	221
	北米 ( 千台 )	352	380	406	347	307
	欧州 ( 千台 )	282	304	327	322	239
	中国 ( 千台 )	130	129	101	135	196
	その他 ( 千台 )	227	228	273	238	230
	( 千台 )	1,276	1,302	1,363	1,261	1,193

( 注 )フリーキャッシュフロー - は、営業活動によるキャッシュフローと投資活動によるキャッシュフローの合計。

## 業績推移

営業利益  
当期利益  
( 億円 )





## 取締役および監査役



山内 孝  
(やまのうち たかし)  
代表取締役会長



山木 勝治  
(やまき まさはる)  
代表取締役



尾崎 清  
(おさき きよし)  
代表取締役



トーマス・エイ・  
エイチ・ピクストン  
(Thomas A. H. Pixton)  
代表取締役



金井 誠太  
(かない せいいた)  
取締役



若山 正純  
(わかやま まさずみ)  
取締役



原田 裕司  
(はらだ ゆうじ)  
取締役



丸本 明  
(まるもと あきら)  
取締役



小飼 雅道  
(こがい まさみち)  
取締役

### 監査役

山本 順一(常勤)  
(やまと じゅんいち)

見立 和幸(常勤)  
(みだて かずゆき)

坂井 一郎  
(さかい いちろう)

赤岡 功  
(あかおか いさお)

平澤 正英  
(ひらさわ まさひで)

## 執行役員

社 長 兼 C E O (最高経営責任者)	山内 孝 (やまのうち たかし)	
副 社 長 執 行 役 員	山木 勝治 (やまき まさはる)	社長補佐、研究開発・生産・購買・品質統括
専務執行役員兼CFO (最高財務責任者)	尾崎 清 (おさき きよし)	企画・商品収益管理統括、財務・コスト革新担当
専 務 執 行 役 員	トーマス・エイ・エイチ・ピクストン (Thomas A. H. Pixton)	社長補佐、フォード提携関係統括
専 務 執 行 役 員	金井 誠太 (かない せいいた)	研究開発・プログラム開発推進担当、株式会社マツダE&T代表取締役社長
専 務 執 行 役 員	若山 正純 (わかやま まさずみ)	グローバルマーケティング・グローバル販売・カスタマーサービス統括
専 務 執 行 役 員	原田 裕司 (はらだ ゆうじ)	CSR・環境・広報担当、CFO(最高財務責任者)補佐、法人販売補佐
専 務 執 行 役 員	丸本 明 (まるもと あきら)	経営企画・商品戦略・商品収益管理担当、コスト革新担当補佐
専 務 執 行 役 員	小飼 雅道 (こがい まさみち)	生産・物流・ITソリューション担当、コスト革新担当補佐、研究開発担当補佐

(注) 印は取締役との兼務を示す。

常 務 執 行 役 員	ジェームズ・ジェイ・オサリバン ( James J. O. Sullivan )	マツダモーターオブアメリカ, Inc.( マツダ ノースアメリカンオペレーションズ )社長兼CEO
常 務 執 行 役 員	江川 恵司 ( えがわ けいし )	マツダモーターオブアメリカ, Inc.( マツダ ノースアメリカンオペレーションズ )執行副社長( EVP )兼COO
常 務 執 行 役 員	稲本 信秀 ( いなもと のぶひで )	国内営業担当、国内営業本部長
常 務 執 行 役 員	龍田 康登 ( たつた やすと )	開発担当補佐( モノ造り革新担当 )、トーヨーエイトック株式会社代表取締役社長
常 務 執 行 役 員	太刀掛 哲 ( たちかけ さとし )	品質担当
常 務 執 行 役 員	金澤 啓隆 ( かなざわ ひろたか )	車両開発・電気駆動システム開発・技術研究所担当、コスト革新担当補佐
常 務 執 行 役 員	黒沢 幸治 ( くるさわ こうじ )	秘書・グローバル監査・人事・コーポレート業務推進・コンプライアンス・リスクマネジメント・病院担当
常 務 執 行 役 員	川上 浩三 ( かわかみ こうぞう )	カスタマーサービス担当、マツダパーツ株式会社代表取締役社長
常 務 執 行 役 員	中峯 勇二 ( なかみね ゆうじ )	海外販売担当、海外販売本部長、マツダサウスイーストアジアLtd.社長
常 務 執 行 役 員	ジェフリー・エイチ・ガイトン ( Jeffrey H. Guyton )	マツダモーターヨーロッパGmbH社長兼CEO
常 務 執 行 役 員	山田 憲昭 ( やまだ のりあき )	中国事業担当、マツダ( 中国 )企業管理有限公司董事長兼執行総裁
常 務 執 行 役 員	今井 一基 ( いまい かずき )	購買担当、コスト革新担当補佐
執 行 役 員	楠橋 敏則 ( くすはし としのり )	オートアライアンス( タイランド )Co., Ltd.社長
執 行 役 員	山本 寛 ( やまもと ひろし )	国内営業本部法人販売担当、マツダ中販株式会社代表取締役社長
執 行 役 員	光田 稔 ( みつた みのる )	企画担当補佐、渉外担当、東京本社統括( 東京駐在 )
執 行 役 員	中野 雅文 ( なかの まさふみ )	本社工場長
執 行 役 員	菖蒲田 清孝 ( しょうぶた きよたか )	技術本部長
執 行 役 員	藤原 清志 ( ふじわら きよし )	商品企画・パワートレイン開発担当
執 行 役 員	毛籠 勝弘 ( もろ まさひろ )	グローバル販売統括補佐、グローバルマーケティング担当
執 行 役 員	古賀 亮 ( こが あきら )	企画本部長
執 行 役 員	ポール・アール・ランドル ( Paul R. Randle )	R&Dリエソン室長
執 行 役 員	古玉 尚 ( ふるたま たかし )	商品収益管理本部長
執 行 役 員	フィリップ・ジェイ・ワリング ( Philip J. Waring )	マツダモーターヨーロッパGmbH COO セールス&マーケティング
執 行 役 員	内田 成明 ( うちだ なりあき )	防府工場長

# 主な子会社・関連会社

## 連結子会社 52社 (2010年3月31日現在)

### 日本における連結子会社 26社

会社名	所有率	事業内容
(株)函館マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)東北マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)福島マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)北関東マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
新潟マツダ自動車(株)	100.0%	自動車の販売および修理
(株)甲信マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)関東マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
静岡マツダ(株)	100.0%	自動車の販売および修理
東海マツダ販売(株)	100.0%	自動車の販売および修理
(株)北陸マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)京滋マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)関西マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)西四国マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)九州マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
(株)南九州マツダ	100.0%	自動車の販売および修理
沖縄マツダ販売(株)	100.0%	自動車の販売および修理
マツダパーツ(株)	99.7%	自動車部品の販売
マツダモーターインターナショナル(株)	100.0%	自動車卸売(商社)
(株)マツダオートザム	100.0%	自動車および部品販売(卸売)
マツダ中販(株)	100.0%	中古自動車販売
マロックス(株)	99.6%	自動車および部品運送
倉敷化工(株)	75.0%	自動車部品製造販売
マイクロテクノ(株)	100.0%	自動車部品製造販売
(株)マツダE&T	100.0%	特装車製造、開発
トーヨーエイテック(株)	100.0%	工作機械製造販売
マツダエース(株)	100.0%	保険・不動産など



## 海外における連結子会社 26社

会社名	所在国	所有率	事業内容
マツダモーターオブアメリカ, Inc.	米国	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダカナダ, Inc.	カナダ	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモートルデメヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダセルヴィシオスデメヒコS. de R.L. de C.V.	メキシコ	100.0%	マツダモートルデメヒコに対する人材サービス
マツダモーターズ(ドイツランド) GmbH	ドイツ	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.	ベルギー	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモーターヨーロッパGmbH	ドイツ	100.0%	欧州市場の事業統括
マツダモーターハンガリー	ハンガリー	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモータークロアチア	クロアチア	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモーターズスロベニア	スロベニア	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダオトモビルフランスS.A.S.	フランス	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモーターズUK Ltd.	イギリス	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダスイスS.A.	スイス	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモートルデポルトガルLda.	ポルトガル	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダオートモービルズエスパーニャ, S.A.	スペイン	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモーターイタリア, S.p.A.	イタリア	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダオーストリアGmbH	オーストリア	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモーターロシア, OOO	ロシア	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダオーストラリアPty Ltd.	オーストラリア	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダモーターズオブニュージーランドLtd.	ニュージーランド	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
コンパニアコロンビアナアウトモリスS.A.	コロンビア	100.0%	自動車製造販売
バイクロスマツダデベネズエラC.A.	ベネズエラ	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダセールス( タイランド )Co., Ltd.	タイ	96.1%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダサウスイーストアジアLtd.	タイ	100.0%	アセアン市場の事業統括
PTマツダモーターインドネシア	インドネシア	100.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
マツダ( 中国 )企業管理有限公司	中国	100.0%	中国市場の事業統括

## 持分法適用会社 14社 ( 2010年3月31日現在 )

### 日本における持分法適用会社 9社

会社名	所有率	事業内容
SMMオートファイナンス( 株 )	40.0%	自動車小売金融
マツダ部品広島販売( 株 )	33.3%	自動車部品の販売
マツダ部品山口販売( 株 )	33.3%	自動車部品の販売
マツダ部品西九州販売( 株 )	30.0%	自動車部品の販売
( 株 )マツダプロセッシング中国	29.0%	納車点検・架装
ヨシワ工業( 株 )	33.3%	自動車部品製造販売
( 株 )日本クライメイトシステムズ	33.3%	自動車部品製造販売
MCMエネルギーサービス( 株 )	40.0%	蒸気・電力の供給販売
( 株 )サンフレッチェ広島	21.8%	プロサッカー球団運営

### 海外における持分法適用会社 5社

会社名	所在国	所有率	事業内容
オートアライアンスインターナショナル, Inc.	米国	50.0%	自動車製造販売
オートアライアンス( タイランド )Co., Ltd.	タイ	50.0%	自動車製造販売
一汽マツダ汽車販売有限公司	中国	40.0%	自動車および部品販売( 卸売 )
長安フォードマツダエンジン有限公司	中国	25.0%	自動車エンジン製造販売
長安フォードマツダ汽車有限公司	中国	15.0%	自動車製造販売

## 研究開発拠点

世界の市場動向、先進的な技術動向を迅速かつ的確に把握し、それぞれの市場特性にマッチした個性的でイノベティブな商品開発を推進しています。そのため、日米欧中に研究開発拠点を置いています。



	名称	所在地	主な研究内容
日 本	本社 研究開発部門	広島県安芸郡府中町	・商品 / 技術企画 ・デザイン開発 ・商品開発および育成 ・重要新技術の先行研究
	マツダR&Dセンター横浜	神奈川県横浜市 神奈川区守屋町	・先行商品の企画 ・先行デザインの調査研究、開発 ・重要新技術の先行研究
米 国	マツダノースアメリカン オペレーションズ( MNAO ) 1	カリフォルニア州 アーバイン	・北米市場における技術 / 市場動向などの調査、研究 ・北米市場におけるデザインの開発 ・北米市場における商品適合性評価
		ミシガン州 フラットロック	
欧 州	マツダモーターヨーロッパ( MME )	ドイツ ヘッセン州 オーバーヴァゼル	・欧州市場における技術 / 市場動向などの調査、研究 ・欧州市場におけるデザインの開発 ・欧州市場における商品適合性評価
中 国	マツダ(中国)企業管理有限公司 中国技術支援センター( MCO-CESC )	上海市	・中国市場における技術 / 市場動向などの調査、研究

1 「マツダモーターオブアメリカ, Inc.」「マツダカナダ, Inc.」「マツダモートルデメヒコS. de R.L. de C.V.」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ( MNAO )」と呼んでいる。( 2009年12月31日現在 )

## 総合自動車試験場

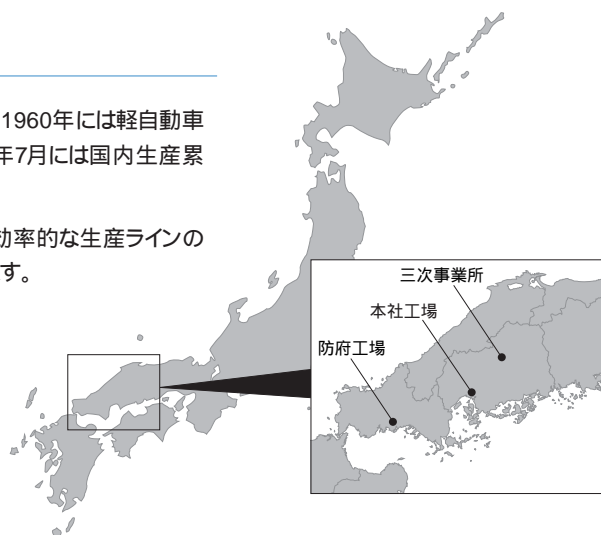
名称	所在地	開設	土地面積	主な研究内容
三次自動車試験場	広島県三次市	1965年 6月	1,677千㎡	新商品の基本性能開発・育成の拠点として、クルマに要求される、走る・曲がる・止まるの走行テストを実施するとともに、大型の試験設備を駆使して、安全技術・環境技術の開発に取り組んでいます。
美祿自動車試験場	山口県美祿市	2006年 5月	603千㎡	三次自動車試験場がないテストコースを新設し、操縦安定性の限界テストなど、車の商品性向上に寄与しています。
北海道剣淵試験場	北海道上川郡剣淵町	1990年 1月	4,700千㎡	積雪路面での4WD・ABS・TCS 2・DSC 3など、安全走行システムの開発テストや、氷・雪害などに対する技術開発・商品性能向上など、寒冷地特有のテストを行っています。
北海道中札内試験場	北海道河西郡中札内村	2002年 1月	206千㎡	さまざまな気象環境条件の下での、車両の性能を開発するための北海道内2番目の試験場です。主に、凍結路面でのABS・TCS・DSCなどの安全走行システムの開発テストを行っています。

2 TCS(トラクションコントロールシステム) : 路面、および走行状況に即応して駆動力を最適化する機構。  
3 DSC(ダイナミック・スタビリティ・コントロール) : 4輪ABS(アンチロックブレーキシステム)とトラクションコントロールの機能を統合し、エンジン出力制御と4輪個別の制動力を最適に制御することによって、クルマの横滑り防止を図る機構である。滑りやすい路面でのコーナリングや、危険回避のための急ハンドル操作時などにも、安定した走行姿勢を保つ。

## 日本での生産活動 (2009年12月31日現在)

・マツダは、1931年に3輪トラックの生産を開始し、自動車事業をスタートしました。1960年には軽自動車「R360クーペ」の生産を開始し、乗用車部門へ本格的に参入しました。2007年7月には国内生産累計4,000万台を達成しています。

・マツダは国内では広島、防府の2拠点に工場を持ち、人と環境にやさしく、かつ効率的な生産ラインの実現に取り組み、独自のフレキシブルな高品質・同期生産ラインを構築しています。



### 生産拠点概要

所在地	名称	地区	生産品目	生産能力	操業開始	土地面積
広島県安芸郡府中町	本社工場	本社	ガソリンレシプロエンジン、自動車用自動変速機		1931年 3月	551千㎡
		宇品第1(U1)工場	デミオ、ベリーサ、ロードスター、RX-8、MPV、CX-9、ピアンテ、ボンゴバン、ボンゴブローニイバン、デミオ(3ドアハッチバック)	274,200台/年	1966年11月	1,685千㎡
		宇品第2(U2)工場	プレマシー、CX-7	240,600台/年	1972年12月	
			ガソリンレシプロエンジン、ディーゼルエンジン、ロータリーエンジン		1964年12月	
広島県三次市	三次事業所		ガソリンレシプロエンジン		1974年 5月	1,677千㎡
山口県防府市	防府工場	西浦 防府第1(H1)工場	アクセラセダン、アクセラスポーツ	240,600台/年	1982年 9月	792千㎡
		防府第2(H2)工場	アテンザセダン、アテンザスポーツ、アテンザスポーツワゴン、アクセラセダン	240,600台/年	1992年 2月	
		中関	自動車用自動変速機、自動変速機		1981年12月	537千㎡
プレス工業株式会社	尾道工場		タイタンダッシュ、ボンゴトラック、ボンゴブローニイトラック			

(注) 本社地区には、本社周辺の所在地(瀨崎地区)を含む。三次事業所は自動車試験場およびエンジン工場用地の合計。  
輸出用のみ。

### 車種別国内生産台数 - 累計

(台)

	車名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	生産累計台数
乗用車	デミオ	71,594	72,785	121,226	206,924	145,384	1,490,320
	ベリーサ	15,707	12,557	14,103	11,801	10,271	78,823
	アテンザ	141,185	139,848	109,303	152,980	48,328	1,024,481
	アクセラ	364,668	380,771	417,186	396,895	325,002	2,287,498
	ロードスター	29,950	48,389	37,022	22,886	19,341	876,542
	RX-8	27,837	23,363	13,833	8,237	2,970	187,153
	プレマシー / イクシオン	83,288	121,457	102,580	106,698	60,125	745,878
	MPV	50,163	33,382	19,380	13,191	7,091	1,061,779
	ピアンテ	—	—	—	13,557	9,031	22,588
	トリビュート / エスケープ	13,005	455	300	500	1,120	121,116
	CX-7	—	60,812	72,648	60,641	35,831	229,932
	CX-9	—	6,303	40,789	44,415	29,104	120,611
	その他	8,667	6,740	3,920	0	0	12,561,006
	計	806,064	906,862	952,290	1,038,725	693,598	30,368,738
商用車	ボンゴ(バン・トラック)	45,719	44,859	33,627	33,334	19,164	1,960,910
	ボンゴブローニイ(バン・トラック)	6,454	7,207	5,350	4,173	2,677	858,851
	タイタン・タイタンダッシュ	6,692	7,619	4,244	2,458	1,736	1,722,408
	その他	0	0	0	0	0	7,394,844
	計	58,865	59,685	43,221	39,965	23,577	11,937,013
	総合計	864,929	966,547	995,511	1,078,690	717,175	42,305,751
内数	ロータリーエンジン搭載車	27,837	23,363	13,833	8,237	2,970	1,991,200
	ディーゼルエンジン搭載車	71,515	124,224	86,807	92,004	61,663	4,697,710

# 地域別の活動

## 日本での販売活動

### 主要販売網

(2009年12月31日現在)

	販売会社数	店舗数
マツダ系	39	801
マツダアンフィニ系	13	65
マツダオートザム系	218	242
合 計	270	1,108

### チャネル別販売車種

	乗用車												商用車							
	デミオ	ベリーサ	ロードスター	アクセラ	プレマシー	アテンザ	RX-8	MPV	ビアンテ	CX-7	キャロル	AZワゴン	AZオフロード	スクラムワゴン	ボンゴ	ボンゴブローニイ	タイタン	タイタンダッシュ	ファミリアバン	スクラムバン・トラック
マツダ系																				
マツダアンフィニ系																				
マツダオートザム系																				

### 車名別販売台数

(2009年12月31日現在 X 台)

車名		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
乗 用 車	デミオ	67,046	60,114	65,480	64,997	55,614
	ベリーサ	16,352	12,859	13,850	11,910	10,162
	ロードスター	3,657	4,067	3,845	1,858	1,947
	アクセラ	26,332	24,210	22,978	16,646	26,769
	プレマシー	28,883	26,887	26,130	21,881	15,202
	アテンザ	17,208	12,257	7,663	15,853	7,398
	RX-8	7,749	5,330	4,184	3,270	1,515
	MPV	25,215	28,386	20,525	13,435	7,033
	ビアンテ	—	—	—	11,037	10,864
	CX-7	—	883	5,046	1,333	572
	その他	3,569	961	0	0	0
	登録車	196,011	175,954	169,701	162,220	137,076
	キャロル	9,707	8,019	8,236	8,540	8,243
	AZ-ワゴン	25,674	27,922	29,214	31,327	27,428
	AZ-オフロード	578	679	568	561	485
	スクラムワゴン	—	—	3,314	3,373	2,484
	その他	5,230	3,557	2,451	1,538	1
	軽自動車	41,189	40,177	43,783	45,339	38,641
	計	237,200	216,131	213,484	207,559	175,717
商 用 車	ボンゴ(バン・トラック)	20,237	19,231	15,026	14,209	9,872
	ボンゴブローニイ(バン・トラック)	2,925	3,257	2,309	1,599	1,359
	タイタン・タイタンダッシュ	11,889	12,561	7,503	5,775	4,061
	ファミリア(バン)	3,865	3,525	3,830	3,505	2,742
	登録車	38,916	38,574	28,668	25,088	18,034
	スクラム(バン・トラック)	10,775	14,515	11,985	11,976	10,622
	軽自動車	10,775	14,515	11,985	11,976	10,622
計		49,691	53,089	40,653	37,064	28,656
総合計		286,891	269,220	254,137	244,623	204,373

(注) 一部速報値を確報値に更新。フォードブランド車は除く。

1 スクラムワゴンは2007年1月より商用車から乗用車に分類変更した。

## 輸出活動 (2009年12月31日現在)

## 仕向け地域別輸出台数

(台)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
北米	202,007	286,202	289,072	271,787	206,628
ヨーロッパ	229,881	269,029	300,196	352,931	190,133
オセアニア	72,461	64,652	68,250	78,734	68,978
その他	104,698	100,690	145,458	178,066	94,087
中近東	38,360	36,997	56,425	73,437	34,692
アジア	24,388	15,342	13,912	38,435	23,584
アフリカ	8,993	9,716	15,783	13,693	6,361
中南米	32,957	38,635	59,338	52,501	29,450
総合計	609,047	720,573	802,976	881,518	559,826

## 車名別輸出台数

(台)

	車名	主な海外名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
乗 用 車	デミオ	Mazda2	9,117	9,030	56,753	139,200	92,418
	プレマシー	Mazda5	50,777	92,321	79,845	85,285	44,823
	トリビュート / エスケープ	Mazda Tribute / Ford Escape	8,196	501	300	440	1,180
	RX-8	Mazda RX-8	19,408	18,133	10,050	5,317	1,454
	MPV	Mazda8	22,582	5,895	353	406	179
	ロードスター	Mazda MX-5 2	25,264	43,758	33,870	21,625	17,185
	アテンザ	Mazda6	122,652	126,945	105,335	136,304	42,095
	アクセラ	Mazda3	338,013	351,110	397,953	384,724	295,594
	CX-7	Mazda CX-7	—	57,095	69,052	60,168	34,597
	CX-9	Mazda CX-9	—	4,608	41,201	45,422	28,761
	その他	Others	7,920	6,720	4,180	0	0
	計		603,929	716,116	798,892	878,891	558,286
商 用 車	ボンゴ(バン・トラック)	Mazda E-Series	4,898	4,197	3,884	2,606	1,520
	タイタン・タイタンダッシュ	Mazda T-Series・Mazda E-Series	220	260	200	21	20
	計		5,118	4,457	4,084	2,627	1,540
	総合計		609,047	720,573	802,976	881,518	559,826

(注) 海外生産用部品( KDセット )を除く。

2 北米向けには「Miata」のサブネームがつく。



# 地域別の活動

## 北米

- ・1971年、マツダは米国に現地法人を設立し、米国でのマツダ車の販売を開始しました。また、1987年にはMMUC工場で現地生産を開始し、1992年からはMMUCをフォードとの合併会社としてオートアライアンスインターナショナル( AAI )に名称変更し、米国でのマツダ車の現地生産を行っています。
- ・2009年の米国での販売台数は総需要減少の影響を受けて前年実績を下回ったものの、シェアは前年と変わらず2.0%となりました。
- ・2009年もメキシコでの販売は引き続き好調で、前年に次ぐ過去2番目に高い11.9万台を記録し、シェアも過去最高となる2.5%を記録しました。
- ・2009年12月に開催された「2009年ロサンゼルス・モーターショー」で北米向け「Mazda2」を初公開し、2010年夏には米国とカナダにおいて販売を開始します。



### 統括拠点

( 2009年12月31日現在 )

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
米 国	マツダノースアメリカンオペレーションズ( MNAO ) Mazda North American Operations 1	① カリフォルニア州 アーパイン	1997年10月	-	自動車・部品の卸売販売、北米市場における技術動向などの調査・研究、デザインの開発、商品適合性評価	-
		② ミシガン州フラットロック				

1 「マツダモーターオブアメリカ, Inc.」「マツダカナダ, Inc.」「マツダモートルデメヒコS. de R.L. de C.V.」を総称して「マツダノースアメリカンオペレーションズ( MNAO )」と呼んでいる。

### 生産拠点

( 2009年12月31日現在 )

国 / 地域名	名称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
米 国	② オートアライアンスインターナショナル, Inc. AutoAlliance International, Inc.( AAI )	ミシガン州フラットロック	1987年 9月 2	2,626名	アテンザ	マツダ 50% フォード 50%
	③ フォード カンザスシティ工場 Ford Motor Kansas City Assembly Plant	ミズーリ州	2000年 6月	-	トリブート	フォード 100%

2 マツダモーターマニュファクチャリングUSAコーポレーション( MMUC )としてマツダ車生産開始。1992年6月、現社名に名称変更。

### 販売拠点

( 2009年12月31日現在 )

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
米 国	マツダモーターオブアメリカ, Inc. Mazda Motor of America, Inc.	カリフォルニア州アーパイン	1971年 2月	783名	マツダ 100%
カナダ	マツダカナダ, Inc. Mazda Canada Inc.	オンタリオ州リッチモンドヒル	1968年 7月	117名	マツダ 100%
メキシコ	マツダモートルデメヒコS. de R.L. de C.V. Mazda Motor de Mexico, S. de R.L. de C.V.	メキシコシティ	2004年12月	24名	マツダ 99% マツダモーターインターナショナル 1%



オートアライアンスインターナショナル, Inc.( AAI )



「Mazda2」( 北米仕様 )

## 生産台数

( 2009年12月31日現在 台 )

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
米 国	オートアライアンスインターナショナル, Inc.	74,260	71,493	54,335	74,959	32,065
	フォード カンザスシティ工場	40,677	15,043	23,785	15,907	7,396
合 計		114,937	86,536	78,120	90,866	39,461

## 販売台数

( 2009年12月31日現在 台 )

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
米 国	258,339	268,786	296,109	263,949	207,767
カナダ	77,867	81,007	86,659	84,974	73,672
メキシコ	769	7,495	16,604	21,997	18,914
合計	336,975	357,288	399,372	370,920	300,353

## 市場およびディストリビューター数 ( 2009年12月31日現在 )

市場	ディストリビューター数	ディーラー数
米 国	1	629
カナダ	1	168
メキシコ	1	29
合計	3	826

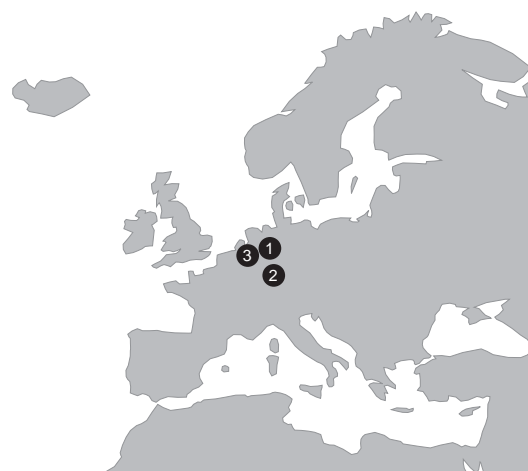
## 主要販売車種

地域	北米		
	米国	カナダ	メキシコ
アクセラ			
プレマシー			
アテンザ			
CX-7			
CX-9			
ロードスター			
RX-8			
トリビュート			
Bシリーズ			

# 地域別の活動

## 欧州

- ・マツダは1967年より欧州でのマツダブランド車の販売を開始し、1972年にはドイツに現地法人を設立しました。
- ・2000年頃より欧州主要国で販売網の再構築に着手しました。主要国のディストリビューターをマツダ直轄下に置き、販売・マーケティング活動の効率化や欧州での一貫した戦略・施策を推し進めています。
- ・2009年3月より販売を開始した「Mazda3」は、欧州の新車安全評価基準である「ユーロNCAP」の2009年安全性能総合評価において最高の5つ星を獲得しました。
- ・2010年3月に開催された「ジュネーブモーターショー」では新型「Mazda5」を世界初公開し、欧州では今秋より販売を開始する予定です。



## 統括拠点

(2009年12月31日現在)

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
ドイツ	① マツダモーターヨーロッパGmbH( MME ) Mazda Motor Europe GmbH	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1998年 3月	285名	事業所 販売	マツダモーター ロジスティクス ヨーロッパN.V. 100%
	② ( European R&D Centre )	ヘッセン州オーバーヴァゼル	1987年12月	86名	研究開発	
ベルギー	③ マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. Mazda Motor Logistics Europe N.V. ( Vehicles and Parts Distribution Centre )	アントワープ州ウィルブローク	1998年 8月	401名	事業所 物流、販売	マツダ 100%

## 販売拠点

(2009年12月31日現在)

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
ドイツ	マツダモーターズ(ドイツランド)GmbH Mazda Motors ( Deutschland ) GmbH	ノルトラインウエスト ファーレン州レバークーゼン	1972年11月	155名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イギリス	マツダモーターズUK Ltd. Mazda Motors UK Ltd.	ケント州ダートフォード	2001年 5月	97名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
フランス	マツダオートモビルフランスS.A.S Mazda Automobiles France S.A.S	イヴリーヌ県 サン・ジェルマン・アン・レイ	2001年 2月	46名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スイス	マツダスイスS.A. Mazda ( Suisse ) S.A.	プチランシー	2001年 2月	42名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
オーストリア	マツダオーストリアGmbH Mazda Austria GmbH	クラゲンフルト	1981年 7月	104名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
スペイン	マツダオートモービルズエスパーニャ, S.A. Mazda Automoviles Espana, S.A.	マドリッド	2000年 2月	47名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
ポルトガル	マツダモートルデポルトガルLda. Mazda Motor de Portugal Lda.	リスボン	1995年 2月	23名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
イタリア	マツダモーターイタリア, S.p.A. Mazda Motor Italia S.p.A.	ローマ	1999年12月	56名	マツダ 75%、 マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 25%
ロシア	マツダモーターロシア, OOO Mazda Motor Russia, OOO	モスクワ	2005年12月	67名	マツダ 100%
デンマーク	マツダモーターデンマーク Mazda Motor Denmark	レズオウア	2003年 4月	17名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ノルウェー	マツダモーターノルウェー Mazda Motor Norge	コルボン	2004年 4月	12名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

## 販売拠点

(2009年12月31日現在)

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
スウェーデン	マツダモーターズスウェーデン Mazda Motor Sweden	クングスバッカ	2004年 4月	13名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
アイルランド	マツダモーターアイルランド Mazda Motor Ireland	ダブリン	2006年 7月	11名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
チェコ	マツダモーターチェコ Mazda Motor Czech	ブラハ	2006年10月	15名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
スロバキア	マツダモーターズスロバキア Mazda Motor Slovakia	ブラチスラバ	2006年10月	7名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ベルギー・ ルクセンブルク	マツダモーターベラックス Mazda Motor Belux	ウィルブローク	2007年 4月	27名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
ハンガリー	マツダモーターハンガリー Mazda Motor Hungary Kft	ブダペスト	2008年 4月	14名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 100%
クロアチア	マツダモータークロアチア Mazda Motor Croatia d.o.o.	ザグレブ	2008年 4月	12名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 100%
スロベニア	マツダモーターズスロベニア Mazda Motor Slovenija d.o.o.	リュブリャナ	2008年 4月	10名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 100%
ポーランド	マツダモーターポーランド Mazda Motor Poland Co., Ltd.	ワルシャワ	2008年 5月	17名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
トルコ	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V. メルケジ・ベルチカ・トルキエ・イスタンブール・シュベシ Mazda Motor Logistics Europe N.V. Merkezi Belcika Turkiye Istanbul Subesi	イスタンブール	2008年 6月	12名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店
オランダ	マツダモーターネーデルランド Mazda Motor Nederland	ワディンクスフェーン	2008年10月	34名	マツダモーターロジスティクス ヨーロッパN.V. 支店

## 生産台数

(2009年12月31日現在 X 台)

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
スペイン	フォード バレンシア工場	35,928	29,245	14,235	-	-

2007年6月に生産終了。

## 販売台数

(2009年12月31日現在 X 台)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
欧 州	271,558	306,698	311,247	339,969	256,426

## 市場およびディストリビューター数

(2009年12月31日現在)

	市場	ディストリ ビューター数	ディーラー数
欧 州	41	31	2,272

## 主要販売車種

地域	欧州														
市場	ドイツ	イギリス	ロシア	オーストリア	イタリア	フランス	スペイン	スイス	デンマーク	ギリシャ	ベルギー	オランダ	ポルトガル	フィンランド	スウェーデン
デミオ															
アクセラ															
プレマシー															
アテンザ															
CX-7															
ロードスター															
RX-8															
BT-50															

# 地域別の活動

## 中国

- ・マツダは2001年より本格的に中国市場に進出し、2007年には「生産」「販売」「商品」の基盤整備がほぼ完了しました。
- ・マツダ(中国)企業管理有限公司では、2つの販売チャネルである「一汽マツダ」「長安マツダ」を統括し、統一したブランド戦略を展開しています。
- ・2009年(暦年)の生産台数は前年比65.0%増の17.4万台、販売台数は40.5%増の18.0万台となり、過去最高を記録しました。
- ・2010年後半には「Mazda8(日本名:MPV)」を発売する予定です。



### 統括拠点

(2009年12月31日現在)

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
中国	① マツダ株式会社 北京事務所 Mazda Motor Corporation Beijing Representative Office	北京市 朝陽区	1985年 3月	1名	マツダ直営事務所	—
	② マツダ(中国)企業管理有限公司 Mazda Motor (China) Co., Ltd.(略称 MCO)	上海市 浦東新区	2005年 1月	39名	中国市場の事業統括	マツダ 100%
	① マツダ(中国)企業管理有限公司 北京分公司 Mazda Motor (China) Co., Ltd. Beijing Branch (略称 MCO-Beijing)	北京市 朝陽区	2007年11月	19名	MCO支社	—
	② マツダ(中国)企業管理有限公司 中国技術支援センター Mazda Motor (China) Co., Ltd. China Engineering Support Center(略称 MCO-CESC)	上海市 嘉定区	2005年 8月	44名	MCO支社・事務所・ワークショップ 技術動向などの調査、研究、およびR&D、購買、品質、サービス領域の技術支援	—

1 2010年8月閉鎖予定、以降MCOに業務統合。

### 生産拠点

(2009年12月31日現在)

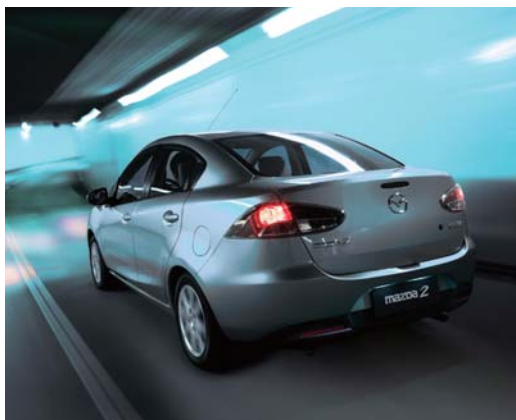
国 / 地域名	名称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
中国	③ 一汽乗用車有限公司 FAW Car Co., Ltd.(略称 FCC)	吉林省 长春市	2003年 3月	-	アテンザ	現地 100%
	④ 長安フォードマツダ汽车有限公司 Changan Ford Mazda Automobile Co., Ltd. (略称 CFMA)	重慶市	2006年 2月 (2001年 4月 長安フォード 設立)	5,844名	アクセラ 2	長安汽車 50% フォード 35% マツダ 15%
	⑤ 長安フォードマツダ汽车有限公司 南京公司 Changan Ford Mazda Automobile Co., Ltd. Nanjing Company(略称 CFMA-Nanjing)	江蘇省 南京市	2007年10月	2,170名	デミオ	
	⑤ 長安フォードマツダエンジン有限公司 Changan Ford Mazda Engine Co., Ltd.(略称 CFME)	江蘇省 南京市	2007年 4月 (2005年 9月 設立)	1,515名	自動車用エンジン	長安汽車 50% マツダ 25% フォード 25%

2 2010年5月以降、CFMA南京に生産移管。





「2代目Mazda6: 中国名 / Mazda6睿翼 (Ruiyi)」(中国仕様)



「Mazda2セダン: 中国名 / Mazda2劲翔 (Jinxiang)」(中国仕様)

## 販売拠点

(2009年12月31日現在)

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
中国	一汽マツダ汽車販売有限公司 FAW Mazda Motor Sales Co., Ltd.( 略称 FMSC )	吉林省 长春市	2005年 3月	291名	一汽乗用車 56% マツダ 40% 第一汽車集団 4%
	長安フォードマツダ汽車有限公司 販売分公司 長安マツダ事業部 Changan Ford Mazda Automotive Co., Ltd. Sales Branch Office, Changan Mazda Division( 略称 CAM )	北京市 朝陽区	2007年 4月	148名	長安フォードマツダ汽車 有限公司の販売部門

## 生産台数

(2009年12月31日現在 X 台)

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
中国	一汽乗用車	55,758	46,640	57,661	65,670	101,844
	長安フォードマツダ汽車	-	3,490	40,087	39,695	71,944
	一汽海馬汽車 3	75,066	74,601	12,141	-	-
合 計		130,824	124,731	109,889	105,365	173,788

3 一汽海馬汽車は2007年12月に契約終了。

## 販売台数

(2009年12月31日現在 X 台)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
中国	133,778	126,063	101,900	127,846	179,679

## 市場およびディストリビューター数

(2009年12月31日現在)

市場	ディストリ ビューター数	ディーラー数
中国	2	254

## 主要販売車種

市場	中国
デミオ	
アクセラ	
ブレマシー	
アテンザ	
CX-7	
ロードスター	

# 地域別の活動

## アジア・大洋州

- ・マツダは、1998年よりタイにおけるフォードとの合弁生産工場オートアライアンス( タイランド ) AAT )において、ピックアップトラックの現地生産を開始しました。
- ・2007年10月にはAATでの新乗用車工場建設を発表し、2009年7月に開所式を実施、同年9月よりMazda2の生産を開始しています。
- ・オーストラリアでは、2009年は過去2番目に高い台数となる7.8万台の販売を達成し、過去最高のシェア8.3%を記録しました。



### 統括会社

( 2009年12月31日現在 )

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
タ イ	① マツダサウスイーストアジアLtd. Mazda South East Asia, Ltd.( MSEA )	バンコク	2005年 8月	5名	ASEAN市場の 事業統括	マツダ 100%

### 生産拠点

( 2009年12月31日現在 )

国 / 地域名	名称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
台 湾	② 福特六和汽車股份公司 Ford Lio Ho Motor Co., Ltd.( 略称 FLH )	中歴市	1987年 3月	1,300名	アクセラ、プレマシー、 トリビュート	フォード 70% 現 地 30%
タ イ	オートアライアンス( タイランド )Co., Ltd. ③ AutoAlliance( Thailand )Co., Ltd. ( 略称 AAT )	ラヨーン県 イースタン・ シーボード 工業団地	1998年 5月 1 ( 1995年11月設立 )	4,300名	デミオ、BT-50	マツダ 47% フォード 50% マツダセールス ( タイランド ) 3%
フィリピン	④ フォードモーターカンパニーフィリピン Ford Motor Company Philippines, Inc.	サンタ・ロサ	2004年 2月	-	アクセラ	フォード 100%

1 乗用車は2009年9月に生産開始。

### 販売拠点

( 2009年12月31日現在 )

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
タ イ	マツダセールス( タイランド )Co., Ltd. Mazda Sales ( Thailand ) Co., Ltd.	バンコク	1990年 6月	66名	マツダ 96.1% KKS 3.9%
インドネシア	PTマツダモーターインドネシア PT Mazda Motor Indonesia	ジャカルタ	2006年 2月	22名	マツダ 99.96% MSEA 0.04%
オーストラリア	マツダオーストラリアPty Ltd. Mazda Australia Pty Ltd.	ビクトリア州 マウントウエイバリー	1967年 4月	148名	マツダ 100%
ニュージーランド	マツダモータースオブニュージーランドLtd. Mazda Motors of New Zealand Ltd.	オークランド市 マウントウエリントン	1972年 6月	25名	マツダ 100%



オートアライアンス( タイランド )Co., Ltd.( AAT )



「Mazda2セダン」( AAT製 )

## 生産台数

( 2009年12月31日現在 台 )

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
台 湾	福特六和汽車	23,418	17,735	14,097	6,062	9,491
タ イ	オートアライアンス( タイランド )Co., Ltd.	35,003	43,566	51,876	48,238	29,408
フィリピン	フォードフィリピン	-	-	285	200	180
マレーシア	アソシエーティッドモーターズ 2	1,458	540	190	148	-
インド	スワラジマツダ 3	12,607	10,379	2,939	-	-

2 マレーシアのアソシエーティッドモーターズインダストリー社は2008年3月に契約終了。

3 インドのスワラジマツダ社とは2005年8月に資本関係を解消。

## 販売台数

( 2009年12月31日現在 台 )

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
アジア( 中国以外 ) 4	61,089	50,099	43,740	31,942	33,696
オセアニア	74,024	71,272	85,883	88,512	84,614

4 インド除く、台湾含む。

## 市場およびディストリビューター数

( 2009年12月31日現在 )

	市場	ディストリビューター数	ディーラー数
アジア( 中国以外 ) 4	11	10	229
オセアニア	8	8	211

4 インド除く、台湾含む。

## 主要販売車種

地 域	アジア							オセアニア	
市 場	台 湾	タ イ	シンガポール	フィリピン	インドネシア	香 港	マレーシア	オーストラリア	ニュージーランド
デミオ									
アクセラ									
プレマシー									
アテンザ									
CX-7									
CX-9									
MPV									
ロードスター									
RX-8									
トリビュート									
BT-50									
E-シリーズ									

# 地域別の活動

## カリブ・中南米・中近東・アフリカ メキシコを除く(北米のページ参照)



### マツダ事務所

(2009年12月31日現在)

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	主な業務内容	資本構成
アラブ首長国連邦	① マツダ中近東事務所 Mazda Representative Office( Middle East )	ドバイ	1982年3月	5名	販売店への販売・サービス支援・指導業務	-

### 生産拠点

(2009年12月31日現在)

国 / 地域名	名称	所在地	マツダ車 生産開始時期	従業員数	主な生産車種	資本構成
コロンビア	② コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A. 1 Compania Colombiana Automotriz S.A.( CCA )	ボゴタ	1983年4月	636名	アクセラ、デミオ、BT-50	マツダ 95% マツダモーター インターナショナル 5%
エクアドル	③ マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イレブエストス エクアトリアノス S.A.( マレサ ) Manufacturas, Armaduras y Repuestos Equatorianos S. A.( MARESA )	キト	1986年11月	-	BT-50	現地 100%
ジンバブエ	④ ウィローベールマツダモーターインダストリーズ Willowvale Mazda Motor Industries( PVT )Ltd.	ハラレ	1980年7月	206名	アクセラ、BT-50	MOTEC 58% マツダ 25% Workers Trust 9% 伊藤忠商事 8%
南アフリカ	⑤ フォードモーターカンパニーオブ サザンアフリカPty Ltd. Ford Motor Company of Southern Africa( Pty )Ltd	プレトリア	1963年6月	-	BT-50	フォード 100%

1 コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.社は生産と販売を行っている。1983年にマツダ車組立生産・販売を開始。

### 販売拠点

(2009年12月31日現在)

国 / 地域名	名称	所在地	設立時期	従業員数	資本構成
コロンビア	① コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A. 1 Compania Colombiana Automotriz S.A.( CCA )	ボゴタ	1973年10月	636名	マツダ 95% マツダモーターインター ナショナル 5%

1 コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.社は生産と販売を行っている。1983年にマツダ車組立生産・販売を開始。

## 生産台数

(2009年12月31日現在 万台)

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
コロンビア	コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A. 1	2,839	3,664	5,620	4,159	3,520
エクアドル	マヌファクトゥラス アルマドゥリアス イレブエストス エクアトリアノスS.A.	4,314	5,349	6,236	8,941	6,861
ジンバブエ	ウィローベール	1,213	926	1,611	1,463	911
南アフリカ	フォードサザンアフリカ	4,951	6,115	5,983	5,260	3,725
イラン	パーマンモーター 2	10,585	12,135	2,886	-	-

1 コンパニアコロンビアナアウトモトリスS.A.社は生産と販売を行っている。1983年にマツダ車組立生産・販売を開始。

2 イランのパーマンモーターは2007年でノックダウン生産終了。

## 販売台数

(2009年12月31日現在 万台)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
カリブ・中南米 3	40,634	46,336	61,564	53,530	33,308
中近東	39,686	40,223	55,399	68,120	51,691
アフリカ	15,875	18,970	21,905	25,832	16,838

3 メキシコを除く(北米のページ参照)。

## 市場およびディストリビューター数

(2009年12月31日現在)

	市場	ディストリ ビューター数	ディーラー数
カリブ・中南米 3	35	37	151
中近東	12	12	241
アフリカ	25	25	245

3 メキシコを除く(北米のページ参照)。

## 主要販売車種

地域	カリブ・中南米				中近東				アフリカ		
市場	コロンビア	エクアドル	チリ	プエルトリコ	イスラエル	サウジ アラビア	アラブ 首長国連邦	オマーン	クウェート	南アフリカ	ジンバブエ
デミオ											
アクセラ											
ブレマシー											
アテンザ											
CX-7											
CX-9											
ロードスター											
RX-8											
トリビュート											
BT-50											
B-シリーズ											
E-シリーズ											



# 経営計画 / 技術開発長期ビジョン

## 経営計画

マツダは2007年3月に、10年先を見据えた長期戦略に基づく中期計画「マツダ アドバンスメント プラン( MAP )」を発表しました。その後、急激な経営環境の悪化や、市場・競争環境の変化に対応するため、この長期戦略を踏まえつつ、新たな中長期施策の検討を進めてきました。

### 中長期施策の枠組み

中期計画( MAP )にて継続して取り組んでいる主要施策をさらに進化、発展させた「中長期施策の枠組み」を策定しました。この施策は、「ブランド価値」「モノ造り革新」「環境・安全技術」「新興市場」「フォードシナジー」の5つの柱で構成されています。

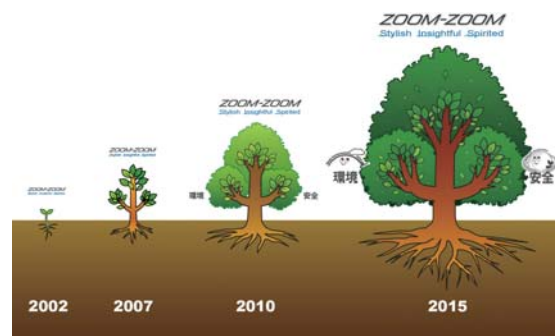
また、これらの施策が進捗し、次世代商品群がすべて出そろった2016年3月期中長期の見通しとして、グローバル販売台数170万台、連結営業利益1,700億円、ROS( 連結売上高営業利益率 )5%以上を目指していきます。

5つの柱	中長期見通し (2016年3月期)
1. ブランド価値	グローバル販売台数 .....170万台
2. モノ造り革新	営業利益 .....1,700億円
3. 環境・安全技術	ROS .....5%以上
4. 新興市場	
5. フォードシナジー	

## 技術開発長期ビジョン

### 「サステイナブル“ Zoom-Zoom ”宣言」

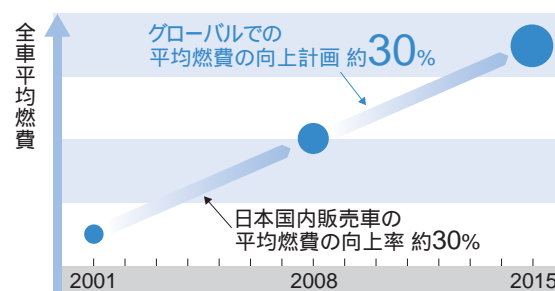
マツダは2007年3月、技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“ Zoom-Zoom ”宣言」を発表しました。これは、「いつまでも『ワクワク』するクルマ、『見て乗りたくなる、乗って楽しくなる、そしてまた乗りたくなる』クルマを提供し、クルマも、人も、地球も、みんながワクワクし続けられる、サステイナブルな未来の実現に向けてマツダが取り組むこと」を宣言したものです。



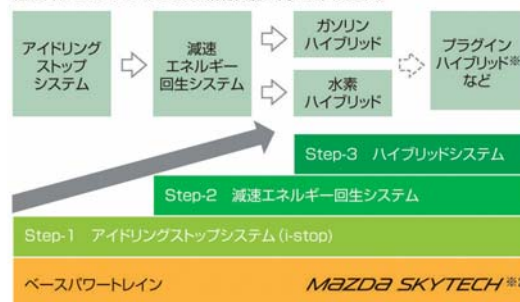
### 電気デバイスの段階的実用化 「ビルディングブロック戦略」

マツダは、高い環境性能を実現するためには、クルマの基本性能となる、エンジンやトランスミッションなどのパワートレインや軽量化、空力特性といったベース技術の徹底的な改善が重要と考えています。2020年においても、グローバル市場に占めるベースエンジンの割合は大きいと予測されており、すべてのマツダ車に適用できるエンジン技術の革新をはじめとしたベース技術の強化は、環境性能のレベル向上に大きく寄与します。さらにその上に、独自のアイドリングストップシステム「i-stop」や減速エネルギー回生技術、ハイブリッド技術などの電気デバイスを段階的に組み合わせることで、より高いレベルの走る歓びと優れた環境性能を実現していきます。マツダではこれを「ビルディングブロック戦略」と呼び、取り組みを加速しています。

#### 【平均燃費の向上】



革新的な環境性能を持つ、ベースエンジンに段階的に電気デバイスを組み合わせることで、さらなる環境性能の向上を図ります。



1 家庭用電源で電池を充電できるハイブリッド車  
2 2011年以降導入予定の次世代PTコンCEPT技術の総称です。

# 環境への取り組み

## マツダ SKY(スカイ)コンセプト 1 –すべての人に走る喜びと優れた環境性能を–

### マツダ SKY-G 1



### 次世代直噴ガソリンエンジン

導入予定: 2011年 日本・米国 2012年 欧州・中国

運転の楽しさと優れた環境性能の両立

高い膨張比、燃焼の最適化、吸気容積制御、摩擦の低減によって効率を大幅に改善

- ・燃費を15%改善(既存の2.0Lガソリンエンジンとの比較)
- ・現行2.2Lディーゼルエンジンと同等の効率
- ・トルクを15%改善(既存の2.0Lガソリンエンジンとの比較)

シングルナノ触媒によって貴金属の使用量を70%削減

### マツダ SKY-D 1



### 次世代クリーンディーゼルエンジン

導入予定: 2012年 日本・米国・欧州

革新的な燃焼改善と機械抵抗の低減で効率改善

高い膨張比、燃焼の最適化、吸気容積制御、摩擦の低減によって効率を改善

- ・燃費を20%改善(現行2.2Lディーゼルと比較)
- ・中低速域のトルクアップ

優れた環境性能

- ・高効率のセラミックディーゼル微粒子除去フィルター(DPF)

### マツダ SKY-Drive 1



### 次世代6速オートマチックトランスミッション

導入予定: 2011年 日本・米国 2012年 欧州・中国

素早い変速による走る喜びと軽量化の両立

- ・燃費を5%改善(現行6速オートマチックトランスミッション比較)
- ・ロックアップレンジ拡張によるスポーティーで滑らかな走行性能(デュアルクラッチトランスミッションよりすぐれたダイレクト感)

SKY-GとSKY-Dとの組み合わせにより更なる性能の向上

1 2011年以降導入予定のエンジン、トランスミッションのコンセプト名です。

## 環境技術開発における主な取り組み

### パワートレイン

	技術取り組み	達成目標
ガソリンエンジン	フレックスフューエルエンジン ・E85 2まで対応可能なフレックスフューエルエンジンを2010年3月期に北米市場に導入。 アイドリングストップシステム ・マツダ独自のアイドリングストップシステムである「i-stop」をアクセラ、ピアンテおよび新型プレマシーに導入。	・E85対応 ・燃費性能:7~10%改善(国内)
ロータリーエンジン	次世代ロータリーエンジン ・動力性能、燃費性能を大幅に改善した新型ガソリンロータリーエンジンを2010年代初頭に市場導入。 水素ロータリーエンジン RX-8 ハイドロジェンRE ・ノルウェーのHyNor(ハイノール)プロジェクトに参画。2009年秋からノルウェーでリース販売を開始。 プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド ・2009年3月よりリース販売を開始。新開発のハイブリッドシステムを搭載、かつRX-8 ハイドロジェンREから動力性能と航続距離を向上。 3.0Lガソリンレシプロエンジン並みの動力性能と航続距離を400kmに向上させた新型ハイドロジェンRE搭載車の実用化を計画。	・動力性能 / 燃費性能の劇的改善 ・動力性能:40%向上(プレマシー) ・航続距離:200km(プレマシー) ・3.0Lガソリンレシプロエンジン並みの動力性能(新型ハイドロジェンRE) ・航続距離:400km(新型ハイドロジェンRE)
ハイブリッド	ガソリンハイブリッド車 ・2007年より、北米市場にトヨタハイブリッドを導入。 ・「i-stop」に始まる電気系デバイス技術開発を加速。減速エネルギー回生、ハイブリッドなど段階的に技術を積み重ね、2013年までに国内市場に導入。	・燃費性能100%改善(現行ガソリンエンジン車比)

### デザイン&プラットフォーム

	技術取り組み	達成目標
デザイン&プラットフォーム	次世代プラットフォーム ・2011年から段階的に展開する新型プラットフォーム採用車では、100kg以上の軽量化を目指す。	・100kg以上軽量化

### 車両技術

	技術取り組み	達成目標
材料技術 生産技術	マツダバイオテックマテリアル技術(バイオプラスチック、バイオファブリック) ・産学官連携で植物由来によるカーボンニュートラルなバイオプラスチックおよびバイオファブリックを開発し、2009年3月からリース販売を開始したプレマシーハイドロジェンREハイブリッドの内装に採用。 ・2013年までに食糧と競合しないセルロース系バイオマス原料としたバイオプラスチック技術開発を行い、自動車への実用化を計画。 アクアテックペイント(水性塗装技術) ・スリー・ウエット・オン塗装をさらに進化させ、VOC排出量をさらに57%削減する革新的な水性塗装技術を2009年に導入、世界で最もクリーンな塗装工場を目指す。 バンパーリサイクル技術 ・2005年より、ディーラーなどで回収した損傷バンパーを、新車用バンパーの材料に再利用。新型車に順次展開。 ・2009年3月に、あらゆる使用済み自動車バンパーに関して、破砕から再生材製造までに至るまでの一連の工程を自動化したリサイクル技術を開発。	・VOC排出量:57%削減

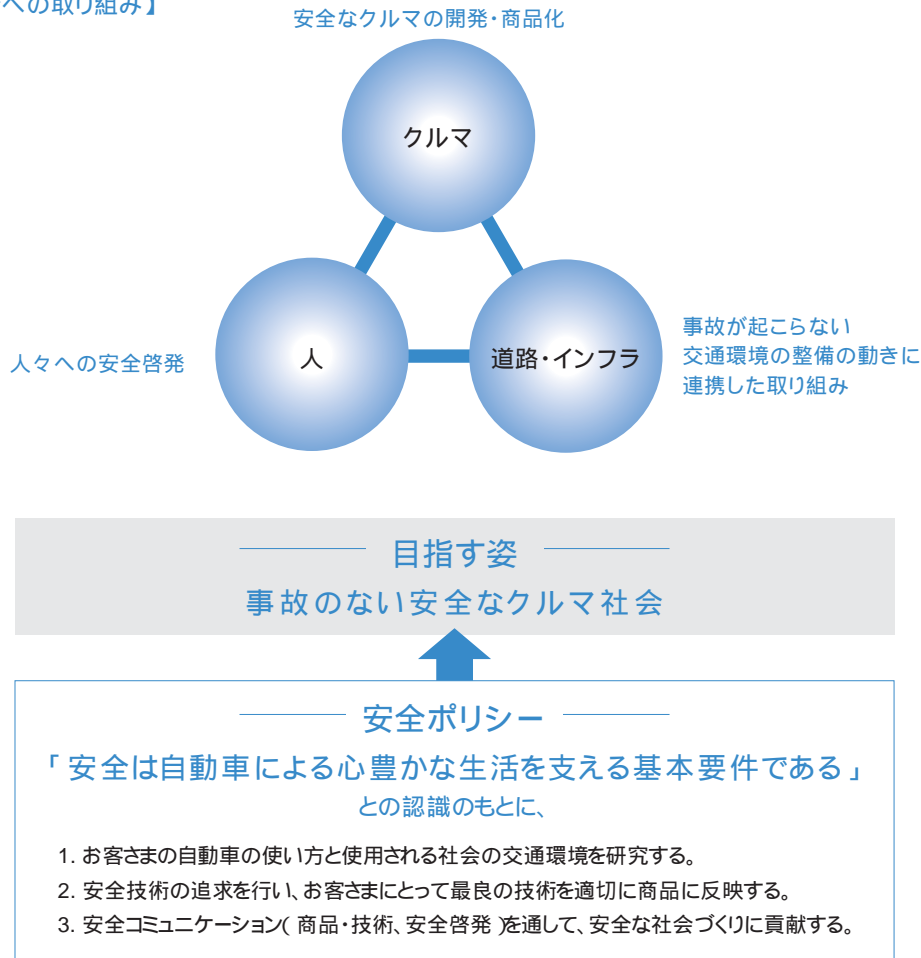
2 E85: バイオエタノール85%燃料

# 安全への取り組み

## 安全についての基本的な考え方

マツダでは、安全性能向上をクルマ作りの基本の一つと考え、さまざまな技術や装備の開発に努めています。独自の「安全ポリシー」に基づき、「クルマ」「人」「道路・インフラ」という3つの視点で、「事故のない安全なクルマ社会」を目指しています。

### 【安全への取り組み】



## 安全への主な取り組み

### 万が一事故が発生した際に人への被害を軽減する「パッシブセーフティ技術」

マツダは、各国の法規で定められている条件だけでなく、道路上で発生しうるさまざまな状況を想定した衝突実験を行い、乗員保護の技術を着実に進化させています。2009年11月には「Mazda3(日本名: アクセラ)」の欧州仕様車が、昨年の「Mazda6(日本名: アテンザ)」の欧州仕様車に引き続き欧州の安全評価基準「ユーロNCAP」で、最高評価の5つ星を獲得しました。マツダ車は、世界最高レベルの安全性能を実現しています。

欧州各国の交通関連当局などで構成された独立機関が1997年より実施している自動車の安全性能評価

### 危険回避や危険予知をサポートする「アクティブセーフティ技術」

ドライバーの危険回避や危険予知をサポートし、事故を未然に防ぐ「アクティブセーフティ技術」の研究開発に取り組んでいます。今後もさまざまな視点から、研究開発・商品化に取り組んでいきます。

#### ブレーキ・オーバーライド・システム(BOS)の導入

BOSは、事故の防止・被害軽減を図ることを目的に、運転時に予想外の状況でアクセルとブレーキを同時に踏み込んだ場合は、ブレーキの機能を優先してクルマを停車させる装置です。

2010年に発売を開始した新型「プレマシー」(海外名: Mazda5)から、今後グローバルに発売するすべての新型乗用車に「ブレーキ・オーバーライド・システム(BOS)」を順次標準装備していきます。

マツダは、先進技術の研究・開発だけでなく、お客さま目線の安全装備の導入を心がけています。

#### ITSを活用した安全な社会への取り組み

ITS(高度道路交通システム)は、情報通信技術を用いて、クルマと人と交通環境を結び、渋滞緩和や事故防止の検討を図るシステムとして注目されています。2009年は、安全だけでなく、環境保全の視点でのプロジェクトもスタートするなど、官民一体となって道路交通システムの整備を進めています。

マツダは、国や地域、関連企業と連携して、社会全体で安全なクルマ社会の実現を目指していくため、ITSの研究・開発およびその整備に関わるプロジェクトに積極的に参画し、自動車メーカーの視点で、ITS車両搭載機器の開発や同搭載機から取得したデータの収集分析などを行っています。



# 社会貢献活動 / 社員への取り組み

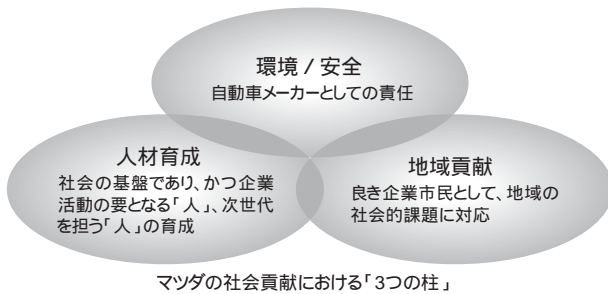
## マツダの社会貢献活動

### 基本的な考え方

グローバルにビジネスを展開しているマツダは、それぞれの地域のニーズに即した社会貢献を積極的・継続的に、良き企業市民としての責任を果たしていきます。

### 3つの柱

マツダは、「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、地域に根ざした活動を推進していきます。



### トピックス

#### マツダボランティアセンター(1996年設立)

マツダ・グループ企業の社員による地域清掃や環境美化、福祉イベントへの協力などボランティア活動を実施しています。

#### マツダスペシャリストバンク(1994年設立)

マツダおよびグループ企業の社員で、専門的な知識・技術・技能や長年培ってきた特技・趣味を持つ人材を募って登録し、地域からのさまざまな要請に応じて派遣しています。

#### タイ:「バック・トゥ・エンプロイズ・スクール」

2004年からオートアライアンス(タイランド)Co., Ltd.(略称 AAT)において、社員の出身校(小学校)に文具、運動用具などを寄付する活動を、マツダ本社とマツダ労働組合の協力で続けています。



「バック・トゥ・エンプロイズ・スクール」:  
AAT社員の出身校を訪問

#### 中国:「マツダ交通安全救助基金」

中国のマツダ企業管理有限公司において、交通事故による後遺症を抱えている障がい者の家族を長期的に支援する活動のほか、「マツダ杯 上海市青少年番組司会者コンクール」のメインスポンサーや交通安全ボランティア活動の実施を行っています。

### マツダ財団

財団名	設立	事業内容	事業実績	URL
マツダ財団	1984年 10月	「科学体験」に関する研究会助成、「科学わくわくプロジェクト」の実施など、科学技術の振興と青少年の健全育成の助成	研究・事業助成 1,477件、12億8,000万円	<a href="http://mzaidan.mazda.co.jp/">http://mzaidan.mazda.co.jp/</a>
マツダ財団 オーストラリア	1990年 8月	青少年の教育、科学技術振興、自然環境保護への助成など	597万 豪ドル	<a href="http://www.mazdafoundation.org.au/">http://www.mazdafoundation.org.au/</a>
マツダ財団 USA	1990年 9月	若者の識字率能力向上、高等教育、州立、国立公園の環境保護、異文化交流、医学研究支援など	約660万 米ドル	<a href="http://www.mazdafoundation.org/">http://www.mazdafoundation.org/</a>
マツダ財団 コロンビア	1990年 12月	物理、数学、音楽などの分野の大学院教育への奨励金提供やクラシック音楽コンサートのサポートなど教育と文化活動の助成	75.6億 コロンビアペソ	<a href="http://www.mimazda.com/">http://www.mimazda.com/</a>
マツダ財団 ニュージーランド	2005年 11月	入院時の児童への学習用コンピューター提供、国の環境保護プロジェクト支援、文化イベント助成など、個人・団体の環境、文化、教育活動援助	約108万 NZドル	<a href="http://www.mazdafoundation.org.nz/">http://www.mazdafoundation.org.nz/</a>

## 社員への取り組み (2010年3月31日現在)

マツダは、商品やサービスはもとより、「人」がイキイキしている企業でありたいと考えています。社員一人ひとりが、力を最大限に発揮できる環境を自ら開拓し、活躍している集団であることを目指しています。

施策名	内容	開始時期
Mazda Way	これまでマツダで受け継がれてきた基本的な考え方や価値観を7つに集約し、仕事を進める上で大切にすべき考え方を「Mazda Way」として定義。	2008年 4月
人事制度「とびうお」	「社員が最大限の力を発揮できるよう最適な仕事や環境を提供する」「社員の成長と活躍を支援することで、企業ビジョンの実現につなげる」という2つのコンセプトに基づき、人事制度「とびうお」として運営。	2003年 4月
選択と自己実現		
キャリアミーティング	上司と部下の公式な話し合いの場として「キャリアミーティング」を年4回、すべての社員を対象に実施。	2003年 4月
キャリアチャレンジ (社内公募・FA)制度	社員のキャリア開発支援制度として導入。 「社内公募」:会社側より必要とする職務経験やスキルの要件を公開し、その仕事にチャレンジしたい人を募集。 「FA制度」:社員が自分の能力やキャリアを社内に公開し、ほかの業務領域や部門へのチャレンジを推進。	2004年 1月
ワークライフバランスの促進		
スーパーフレックスタイム勤務	個々人の業務と私生活の調和を図りながら業務の成果をあげていく目的で導入した、コアタイムのないフレックスタイム制度。	2000年10月
マツダフレックスベネフィット	選択型の福利厚生制度。あらかじめ定められたポイントの範囲内で社員個人が選んだ福利厚生メニューの補助が受けられる仕組み。	2001年10月
事業所内保育施設 マツダわくわくキッズ園	子育てを行う社員が安心して仕事ができるよう設置した社内保育施設で、長時間対応・一時保育・手作り給食などの特長のほか、体調不調児室も完備。	2002年 4月
人・仕事・処遇の最適マッチング		
賃金・等級制度	「職能の習得レベル(技能系・医務系)」や「仕事のレベル(事務・技術系)」に応じて等級を格付け、本人の実績をダイレクトに「本給」や「賞与」に反映。	2003年 4月
人材開発委員会	業務領域や本部別に、マネジメント層をメンバーとする人材開発委員会を毎月開催。	2000年12月
ダイバーシティ(多様性)の確保		
フィジカルチャレンジ サポートデスク	気づきと他者理解を通じた人材育成「共育(ともいく)」を推進し、障がいを持つ方が障がいを超えて活躍できる職場環境づくりを進めるためのカウンセリングの実施、就業環境の整備を推進する機能の設置。	2008年 8月
女性相談・人権相談デスク	女性相談窓口、人権相談の受付、および人権問題の調査と解決を推進する機能を設置。	2000年10月
エキスパート・ファミリー制度	保有能力・経験などの基準を満たした希望者を、定年退職後から再雇用し、技能・技術の伝承や、スペシャリストとしての活躍を行う制度。	2006年 4月

# フォードとの関係

## 共同事業概要

マツダとフォードモーターカンパニーは、1979年11月に資本提携を結んで以来、長期にわたり良好なパートナーシップの関係のもと、生産、開発、販売、物流など事業活動のあらゆる領域において共同で取り組んでおり、互いのシナジーを追求しています。



## フォードとの協力関係におけるこれまでの主な推移

1979年	11月	資本提携、フォードの持株比率25%
1982年	10月	オートラマチャンネル営業開始(フォードブランド車販売)
1992年	6月	MMUCをオートアライアンスインターナショナル, Inc.(AAI)と社名変更し、フォードと共同経営化
	7月	フォードと当社のオートラマへの出資比率を均等化
1993年	6月	フォードより小型トラックを購入し、「マツダBシリーズ」として北米で販売を開始
	12月	長期的観点から、両社間の協力拡大強化を狙った戦略的協力関係の構築に合意
1995年	11月	フォードと合併で、タイにオートアライアンス(タイランド)社(AAT)を設立
1996年	3月	フォードより小型乗用車を購入し、「マツダ121」として欧州での販売を開始
	5月	フォードとの戦略的協力関係強化、フォードの持株比率を25%から33.4%に引き上げ
	6月	ヘンリーD.G. ウォレス社長就任
1997年	1月	オートラマをフォードセールスジャパンに社名変更
	3月	フォードと商品サイクルプランの同期化 / プラットフォームの共通化に基本合意
	11月	ジェームズE. ミラー社長就任
1998年	5月	AAT社で小型ピックアップトラックを生産開始
1999年	3月	当社の保有するフォードセールスジャパンの株式をフォードオブジャパンに売却
	11月	フォードと新型エンジンシリーズを共同開発し、分業生産することを発表
	12月	マーク・フィールズ社長就任
2000年	11月	フォードとの共同開発車「トリビュート」を国内で発売
2002年	1月	フォードグループのセンターオブエクセレンスとして開発した「MZRエンジン」の日本での生産を開始
	6月	ルイス・ブース社長就任
2003年	1月	フォードのバレンシア工場(スペイン)で「Mazda2」の生産を開始
2004年	6月	資本提携25周年 フォード会長兼CEOビル・フォード氏がマツダを訪問
2005年	9月	フォードおよび長安汽車と合併で「長安フォードマツダエンジン有限公司」を設立
2006年	2月	長安フォード重慶工場にて「Mazda3」の生産開始
	3月	長安フォードにマツダが出資し、「長安フォードマツダ汽车有限公司」に社名変更
2007年	4月	長安フォードマツダエンジン有限公司でエンジンの生産開始
	10月	マツダとフォードはAAT社にBカーセグメントの小型乗用車を生産する新工場を建設することを発表
		長安フォードマツダ汽车有限公司南京工場で「Mazda2」の生産開始
2008年	11月	フォードの持株比率を33.4%から13.8%へと変更
2009年	7月	マツダとフォードは、AAT社に新乗用車工場の建設を完成
	11月	マツダの公募増資により、フォードの持株比率が13.8%から11.0%へと変更



# 製品名の由来

## 製品名の由来

### 乗用車

国内名	意味	発売年	由来	主な海外名
デミオ Demio	私の～ (スペイン語からの造語)	1996	スペイン語を合成した造語で英語の“ of mine ”に相当します。「私の」「自分の」「俺の」という様に、「自分流の工夫をして楽しむ車」という気持ちをこめて命名したものです。	Mazda2 1
ベリーサ Verisa	真の充足 (造語)	2004	ベリーサは、イタリア語の“ Verita( 真実 )”と英語の“ Satisfaction( 満足 )”との造語で、「真の充足」という意味です。こだわりを持つ人と、それに応えるモノとの理想的な関係性を表現しています。	—
アクセラ Axela	感情の高鳴りと、無限に広がる可能性(造語)	2003	Accelerate( 加速する、前へ進む )+“ Accelerator ”( アクセル )+“ Excellent ”( 魅力的な、際立った、卓越した )を語源とした造語です。運転の喜びに伴う若々しい感情の高鳴り(“ acceleration ”)と、無限に広がる可能性(“ x ”)を表現しています。	Mazda3
アテンザ Atenza	注目 (イタリア語からの造語)	2002	イタリア語の“ attenzione:アテンツィオーネ( 注目・配慮 )”からの造語で、「細部まで商品力の高い、注目に値する製品である」という意味を込めています。“ Zoom-Zoom ”コンセプトを明確に体現した車として、人々の注目を浴びよう、願いを込めて命名したものです。	Mazda6 2
RX 8	—	2003	「RX」はロータリースポーツ車のラインナップを表します。	Mazda RX 8
ロードスター Roadster	2シーターの屋根なし自動車	1989	ロードスターは、カプリオレ・コンバーチブル・ランナバウト等と同じボディ形状を表わす名称です。北米市場でのサブネーム、Miatalは古いドイツ語で報酬・贈り物の意味を持っています。	Mazda MX 5 3
プレマシー Premacy	至上、至高 (造語)	1999	英語Supremacy( 至上、至高 )からの造語です。品質と機能を高次元で実現させたこのクルマが、各市場においてお客さまの信頼を獲得するとともに、存在感のある固有の地位を確立できるという自信をこのネーミングに込め命名したものです。	Mazda5
ピアンテ Biante	周囲を取り巻く、環境(造語)	2008	「周囲を取り巻く」、「環境」といった意味の英語“ Ambient( アンビエント )”から発想した造語であり、「乗る人みんなの生活環境の一部となり、楽しく快適な暮らしづくりに貢献する」ことを意図したものです。	—
MPV	多目的車	1988	“ Multi Purpose Vehicle ”( 多目的車 )の頭文字をとってアメリカ市場への発売時に名付けられたものです。	Mazda8
トリビュート Tribute	感謝の証として捧げるもの / 賛辞(英語)	2000	マツダの創造性および技術力をお客さまに捧げ、アクティブなライフスタイルの実現に寄与するという思いを込めて命名したものです。	Mazda Tribute
CX-7	クロスオーバー車	2006	「CX」はクロスオーバー車のラインナップを表します。	Mazda CX-7
CX-9	クロスオーバー車	2007	「CX」はクロスオーバー車のラインナップを表します。	Mazda CX-9
キャロル Carol	祝歌、鳥のさえずり (英語)	1962	1970年まで軽乗用車の名前として使用していた。若い女性の、「かわいらしい、楽しい、響きが良い」などの評価を得て復活させたものです。	—
AZ ワゴン AZ Wagon	—	1994	「AZ」はオートザム( Autozam )の略です。	—
AZ オフロード AZ Offroad	—	1998	「AZ」はオートザム( Autozam )の略です。	—

- 1 中国向けMazda2セダンは「Mazda2 勁翔( Jinxiang )」。  
2 中国向け2代目Mazda6は「Mazda6 睿翼( Ruiyi )」。  
3 北米向けにはMazda MX-5に「Miata」のサブネームがつく。

### 商用車

国内名	意味	発売年	由来	主な海外名
ボンゴ Bongo	大カモシカ (英語)	1966	マツダが日本で初めて実現したワンボックスカーを、堂々とした大カモシカになぞらえました。	Mazda E-Series
ボンゴブローニイ Bongo Brawny	力強い (英語)	1983	ボンゴから派生させた一回り大きいモデルに、より力強いイメージを付与しようと意図したものです。	Mazda E-Series
タイタン・ タイタンダッシュ Titan・Titan Dash	巨人 (英語)	1971	力強さが要求されるこのクラスのキャブトラックを、ギリシャ神話に登場する巨人一族になぞらえました。	Mazda T-Series Mazda E-Series
BT-50	B-series Truck 小型と大型トラックの中間	2006	「BT」は従来モデルである「B-Series Truck」( Bシリーズトラック )の頭文字をあてたものです。また、“ 50 ”という数字はこの1トントラックが、積載量500kg程度の小型トラックと大型トラックの中間に位置することを示しています。	Mazda BT-50
ファミリアバン Familia van	家族 (スペイン語)	1964	日本のモータリゼーションの発展期にあってファミリーカーのトップモデルにしたいとの思いを込めました。	—
スクラム Scrum	腕・肩を組むこと (英語)	1989	ラグビー用語から転じて、お客さまやマツダグループの協調・連帯を期して命名したものです。	—

## 1920ー

## 経営

1920年	1月	東洋コルク工業株式会社として創立、海塚新八社長就任	1972年	10月	マツダレーニングセンター鯛尾完成
1921年	3月	松田重次郎社長就任		12月	自動車生産累計500万台達成
1927年	9月	東洋工業株式会社に改称	1974年	5月	三次ディーゼルエンジン工場完成
1929年	4月	工作機械の製作開始	1975年	1月	タイで現地組立を開始
1931年	10月	3輪トラック「マツダ号」を生産開始	1977年	12月	山崎芳樹社長就任
1932年		大連、奉天、青島へ3輪トラック初輸出	1978年	1月	ロータリーエンジン車生産累計100万台達成
1935年	10月	さく岩機の生産開始	1979年	6月	自動車生産累計1,000万台達成
1945年	8月	建物の一部を広島県に貸与、県庁の全機構が当社に移される（～'46年7月）		11月	フォードとの資本提携を開始
1949年	8月	3輪トラック輸出再開（インド）	1981年	12月	防府中間変速機工場稼働開始 「オートラマ」を設立（'82年10月より商品供給開始）
1951年	12月	松田恒次社長就任	1982年	9月	防府西浦工場本格操業開始
1961年	2月	独NSU社、バンケル社とロータリーエンジンに関し技術提携	1983年	4月	コロンビアで現地生産開始（CCA設立）
1962年	1月	韓国で現地組立開始	1984年	5月	マツダ株式会社へ社名変更
1963年	3月	自動車生産累計100万台達成		10月	マツダ財団設立
	6月	南アフリカで現地組立開始		11月	山本健一社長就任
1965年	1月	英国パーキンスサービス社とディーゼルエンジンに関し技術提携	1985年	1月	米国生産会社（MMUCのちのAAI）を設立
	5月	三次自動車試験場完成		3月	マツダ北京事務所設立
1966年	11月	宇品乗用車専用工場完成	1986年	4月	ロータリーエンジン車生産累計150万台達成
1967年	3月	欧州向け本格輸出開始		12月	マツダR&Dセンター、アンナーバー（米国）完成
	4月	オーストラリアに販売会社を設立	1987年	4月	生産累計2,000万台を達成
1968年	7月	カナダに販売会社を設立		6月	技術研究所横浜研究所開設
1969年	4月	ロータリーエンジン車本格輸出開始		12月	古田徳昌社長就任
1970年	4月	対米輸出開始			スズキ（株）鈴木自動車工業との軽自動車生産協力を発表
	11月	松田耕平社長就任	1988年	5月	マツダR&Dセンター、アーバイン（米国）完成
1971年	2月	マツダモーターオブアメリカ（MMA）設立			

## 商品

1931年	10月	マツダ初の自動車、3輪トラック「マツダ号」新発売	1970年	5月	「カベラ」新発売
1950年	6月	マツダ初の小型4輪トラック「CA車」新発売	1971年	9月	「グランドファミリア」シリーズ新発売 「サバンナ」新発売
1958年	4月	小型4輪トラック「ロンパー」新発売（後に「Dシリーズ（クラフト）」 「Eシリーズ（タイタン）」へ派生）	1972年	6月	軽乗用車「シャンテ」新発売
1960年	5月	軽乗用車「R360クーペ」新発売	1975年	3月	「ロードベーター」新発売
1961年	2月	軽4輪トラック「B360」新発売（後に「ポーター」へ改称）		10月	「コスモ」新発売
	8月	小型4輪トラック「B1500」新発売（後に「プロシード」へ改称）	1978年	3月	「サバンナRX-7」新発売
1962年	2月	軽乗用車「キャロル」新発売	1980年	12月	5代目「ファミリア」が「1980-1981日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1963年	10月	「ファミリア800/バン」新発売	1982年	12月	4代目「カベラ（テルスター）」が「1982-1983日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
1964年	10月	「ファミリアセダン」新発売	1983年	6月	「ボンゴブローニイ」新発売
1965年	5月	ライトバス新発売（後に「パークウェイ」へと改称）	1986年	2月	「フェスティバ」新発売
1966年	5月	「ボンゴ」新発売	1987年	1月	「エチュード」新発売
	8月	「ルーチェ」新発売	1988年	10月	「ベルソナ」新発売
1967年	5月	初のロータリーエンジン搭載車「コスモスポーツ」新発売			
1969年	4月	軽4輪トラック「ポーターキャブ」新発売			
	10月	中型トラック「ボクサー」新発売			

1989年	4月	「ユーノス」「オートザム」設立	1998年	1月	社章を変更
	6月	東京支社を東京本社に呼称変更		3月	欧州事業を統合( 現MMEスタート )
1990年	5月	マツダ欧州R&D事務所( MRE )完成		4月	プロダクトフィロソフィーを制定
	12月	生産累計2,500万台達成		5月	AATで生産開始
1991年	6月	第59回ル・マン24時間レースでマツダ787Bが日本車史上初の総合優勝		8月	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.( MLE )を設立
	11月	「マツダオート」チャンネルを「アンフィニ」に変更		9月	防府工場・西浦工場がISO14001を取得
	12月	和田淑弘社長就任		12月	AATより輸出開始
1992年	2月	防府第2工場が本格操業を開始	1999年	6月	AAIが生産累計200万台を達成 三菱自動車と小型商用車のOEM供給で合意
	4月	「マツダ地球環境憲章」を制定		9月	防府工場が環境ISO認証の取得を完了
	9月	中国で現地生産を開始		12月	マーク・フィールズ社長就任
1993年	3月	環境に関する行動推進計画を策定	2000年	4月	通商産業省の支援による燃料電池電気自動車の実車走行試験・共同プロジェクトに参加
	5月	米国AAIでの生産累計100万台達成		6月	全国生産拠点でISO14001認証を取得
1994年	11月	国内自動車メーカーで初めて「ISO9002」規格の認証を取得	2001年	7月	メディアウェブサイトを開設 乗用車共通の「ブランドDNA」を策定
1995年	4月	生産累計3,000万台達成		8月	タイ製ピックアップトラックが生産累計10万台を達成
	11月	タイでAAT設立( 工場着工は翌年2月 )		11月	中期経営計画「ミレニアムプラン」を発表
1996年	4月	「アンフィニ」店を「マツダアンフィニ」店に呼称変更 「ユーノス」店を「マツダアンフィニ」店または「マツダ店」に統合		1月	低コストの塗膜除去技術を活用した回収バンパー再生材の用途を拡大し、新車のバンパー補強用部品に採用
	6月	開発からアフターサービスまでカバーするISO9001を国内自動車メーカーで初めて取得 ヘンリーD. G. ウォレス社長就任		2月	日本初、インターネットを使った受注生産( BTO )を開始
	6月	「新ブランドシンボル」を制定		9月	宇品第2工場を閉鎖( ~'04年5月 )
1997年	10月	北米事業を統合( MNAOスタート )			
	11月	ジェームスE. ミラー社長就任			
	12月	倫理委員会を設置			

1989年	6月	「スクラム」新発売( スズキ( 株 )からのOEM )	1994年	2月	「タイタン」天然ガストラックを開発
	9月	「ユーノスロードスター」新発売		9月	「AZ-ワゴン」新発売( スズキ( 株 )からのOEM ) 商用車「ファミリアバン」、日産自動車( 株 )からのOEM供給に( 5代目 )
	11月	「ユーノス100」「ユーノス300」新発売	1995年	2月	「プロシードレバンテ」新発売( スズキ( 株 )からのOEM )
1990年	1月	「MPV」新発売		6月	「ボンゴフレンディ」新発売
	4月	「ユーノスコスモ」新発売	1996年	8月	「デミオ」新発売
1991年	9月	「レビュー」新発売		10月	初代「デミオ」が「RJCニュー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	5月	「センチア」新発売	1997年	12月	燃料電池電気自動車「デミオFCEV」を開発
	6月	「ユーノスブレッソ」「AZ-3」新発売		10月	軽自動車「AZ-オフロード」新発売( スズキ( 株 )からのOEM ) 軽自動車「キャロル」、スズキ( 株 )からのOEM供給に( 4代目 )
1992年	10月	水素RE自動車「HR-X」を東京モーターショーで発表 「クロノス」新発売	1998年	3月	軽自動車「ラピュタ」新発売( スズキ( 株 )からのOEM )
	11月	「アンフィニMS-6」「アンフィニMS-9」新発売		4月	アルデヒド除去剤「ライフ・プレス」を開発 「ブレマシー」新発売
	1月	「マツダMX-6」新発売	2000年	7月	「ロードスター」が“ 世界で最も多く生産された2人乗り小型オープンスポーツカー ”としてギネスに認定( 565,779台 )
1993年	2月	「ユーノス500」新発売		10月	「タイタンダッシュ」新発売
	3月	「アンフィニMS-8」新発売	2001年	11月	「トリビュート」新発売
	5月	「クレフ」新発売		2月	燃料電池自動車「ブレマシーFC-EV」を開発、国内初の公道走行試験を開始
1994年	10月	軽自動車「AZ-1」新発売		12月	新世代モジュール基材用の高強度プラスチック技術を開発
	11月	天然ガスエンジン搭載乗用車を開発			
	1月	「ユーノスロードスター」ベースの高性能電気自動車を開発			
1995年	4月	ミラーサイクルエンジンの開発に成功			
	9月	「ランティス」新発売			
	10月	「ユーノス800」新発売			

## 2002 -

## 経営

2002年	1月	防府工場が累計生産台数500万台を達成 北海道中札内試験場を竣工 MZRエンジンの生産を国内で開始	2005年	2月	本社敷地内に水素ステーションを開設 創業85周年を機に「マツダミュージアム」全面リニューアル
	3月	事業所内保育施設「わくわくキッズ園」を設置		4月	広島大学大学院工学研究科と自動車の先進技術の研究協力で契約 新生宇品第1工場塗装ライン稼働
	4月	新ブランドメッセージ「Zoom-Zoom」を展開		5月	マツダ地球環境憲章を改訂し、環境への取り組みをグループでの強化へ拡大
	5月	執行役員制度を導入するなどコーポレートガバナンスを強化		6月	中国事業を統括する「マツダ(中国上海)管理諮詢有限公司(MCO)」の開所式を実施
	6月	ルイス・ブース社長兼CEO就任		8月	統括会社「マツダサウスイーストアジアLtd.(MSEA)」をタイに設立 中国技術支援センターを開設
2003年	8月	マツダレンタリースのリースカー事業を住銀オートリースに売却	2006年	1月	三菱商事とエネルギー供給会社「MCMエネルギーサービス(株)」を設立
	9月	マツダアステック(さく岩機製造)をサンドピックグループに営業譲渡		2月	「Mazda3」を長安フォード重慶工場で生産開始
	12月	経営諮問委員会を設置し、コーポレートガバナンスを強化		4月	マツダオートザム 販売累計台数100万台達成
	1月	新世代ロータリーエンジン「RENESIS」の生産を開始 中国一汽乗用車で「Mazda6」の生産開始		5月	美祢自動車試験場を開設の開所式を実施
	7月	フォード バレンシア工場(欧州)で「Mazda2」の生産を開始(〜'07年6月)		7月	自動車運搬船「クーガーエース」事故発生
2004年	8月	いすゞ(株)と小型トラックのOEM供給で合意		9月	AAIが生産累計300万台を達成
	2月	井巻久一社長兼CEO就任		10月	マツダオフィシャルウェブサイトを刷新
	4月	販売系列全店で軽自動車の扱いを開始、登録車も併売を拡大			
	5月	国内生産体制再編のため、本社第1工場での生産を終了			
	9月	国内生産体制再編のため、宇品第2工場を再稼働			
	12月	マツダレンタカーの全株式を譲渡			
	12月	宇品第1工場で火災発生			

## 商品

2002年	2月	軽自動車「スピアーノ」新発売(スズキ(株)からのOEM)	2004年	5月	「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー 2.5〜3.0リットル」部門賞を2年連続で受賞
	5月	次世代商品第一弾として、「アテンザ」新発売		6月	「ベリサ」新発売
	7月	機械加工時の切削液の使用量を大幅削減する「セモドライ加工」で環境への負荷を軽減 世界初の環境にやさしい「スリー・ウエット・オン塗装技術」を開発し、揮発性有機化合物と二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )を削減		10月	RX-8水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始
	11月	初代「アテンザ」が「2003RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞		11月	マツダのスリー・ウエット・オン塗装技術が地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞
	12月	先進安全自動車(ASV)の公道走行試験を開始	2005年	3月	「バンパー-to/バンパー」リサイクル技術をRX-8から新車のバンパーに導入開始
2003年	2月	摩擦熱を利用したアルミ材接合技術を世界で初めて開発		4月	新生宇品第1工場塗装ラインにスリー・ウエット・オン塗装方式を採用
	4月	優れた歩行者保護性能を持つ衝撃吸収構造アルミボンネットを開発		6月	世界初、摩擦熱を利用した鉄とアルミ材の点接合技術を開発
	5月	PM排出量を現行比で75%以上削減するディーゼルエンジン用の排出ガス低減技術を開発		7月	新開発した下塗り塗料により、塗装工程における環境負荷をさらに低減
	6月	「RENESIS」が「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2003」を受賞		11月	3代目「ロードスター」が「2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞
	9月	塗膜除去率を99.9%まで高めるバンパーリサイクルのための新技術を開発し、「バンパー-to/バンパー」リサイクルを実現	2006年	2月	水素ロータリーエンジン車「RX-8 ハイドロジェンRE」の限定リース販売を開始
	10月	「アクセラ」新発売		3月	世界初、「RX-8 ハイドロジェンRE」をエネルギー関連企業に納車
	11月	「RENESIS」が「RJCテクノロジー・オブ・ザ・イヤー」を受賞 「RX-8」が「2004RJCカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞		4月	「RX-8 ハイドロジェンRE」を広島県および広島市に納入
	12月	「Mazda6」が中国の「2004年カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞		5月	産学官の連携で、自動車内装部品用至高強度、高耐熱性を持つバイオプラスチックを開発
				10月	「RX-8 ハイドロジェンRE」を山口県に納入
				11月	「MPV」2.3L DISiターボエンジン車がエコプロダクツ大賞推進協議会会長賞(優秀賞)を受賞
				12月	「CX-7」新発売

2007年	3月	新中期計画「マツダ アドバンスメント プラン」を策定 技術開発の長期ビジョン「サステイナブル“ Zoom-Zoom ”宣言」を策定	2008年	2月	日本初の「人権擁護功労賞」受賞
	4月	長安フォードマツダエンジン工場( 南京 )でのエンジン量産開始		3月	自動車販売金融事業における戦略的提携を実施
	5月	厚生労働省の次世代認定マーク「くるみん」を取得 ロータリーエンジン車発売40周年を迎える		4月	国内販売会社に環境マネジメントシステム「エコアクション21」を導入
	7月	国内生産累計4,000万台を達成 AATが生産累計100万台を達成 業界初となる、V型6気筒エンジンと直列4気筒エンジンの混流生産を実現 専用コンテナでの鉄道往復輸送によるグリーン物流システムを構築		6月	ブランドを視覚的に表現するグローバル・ビジュアル・アイデンティティを導入 CO <sub>2</sub> 排出量削減に向けた取り組みを発表 - 2015年までにグローバルでマツダ車の燃費を30%向上 -
	10月	「Mazda2」を長安フォードマツダ南京工場で生産開始		7月	全国規模の部品販売会社、マツダパーツ株式会社を設立
				9月	シベリア鉄道を利用した車両輸送を開始
				10月	マツダミュージアム来場者100万人達成
				11月	山内孝社長兼CEO就任
				12月	新広島市民球場の命名権契約を締結し、「MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島」と命名
			2009年	3月	「マツダ( 中国 )トレーニングセンター」を北京、上海、深センに開設
				4月	一汽マツダ汽車販売有限公司に増資し、出資比率を25%から40%に引き上げ、販売網を強化
				7月	AAT新乗用車工場完成
			2010年	3月	トヨタとハイブリッドシステムの技術ライセンス供与に合意
				4月	広島大学とマツダ財団の連携事業「科学わくわくプロジェクト」が、「平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞」を受賞

2007年	1月	「ロードスター」が生産累計80万台を達成	2009年	1月	貴金属の使用量を約70%削減できるシングルナノ触媒を世界で初めて実用化
	6月	広島地区におけるITS公道実証実験に参加		2月	ITS合同実証実験「ITS-Safety 2010」に参加
	7月	「RX-8 ハイドロジェンRE」を経済産業省に納入		3月	世界初の廃車バンパーリサイクル自動化技術を開発 日本メーカー初の乗用車用尿素SCRシステムを開発 世界初のハイブリッドシステム搭載水素ロータリーエンジン車 「プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」のリース販売を開始
	9月	植物由来100%の繊維からなる自動車内装用バイオファブリックを開発		5月	「プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」第一号車を岩谷産業株式会社に納車
	10月	世界初となるシングルナノテクノロジーを活用した触媒材料構造を持つ自動車用触媒を開発		6月	世界で最も環境負荷の少ない新水性塗装技術「アクアテック塗装」を開発、宇品第一工場への導入を開始
	11月	3代目「デミオ」が「2008年次RJCカーオブザイヤー」を受賞 ノルウェー国家プロジェクトHyNor( ハイノール )に参画し、2008年夏から水素ロータリーエンジン車をノルウェーに納入		9月	「プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」を広島県、広島市に納入 第41回東京モーターショーで環境・出力性能を飛躍的に高めた次世代パワートレイン「マツダ SKYコンセプト」を世界初公開 「ロードスター」誕生20周年を記念してイベントを開催 「i-stop」が「2010年次RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞 「i-stop」を搭載した「アクセラ」と「ビアンテ」が第6回エコロダクツ大賞を受賞 「つくば環境スタイル実証プロジェクト」に参画し、電気自動車のベース車両として「デミオ」を提供
2008年	1月	「CX-9」が「2008 North American Truck of the Year」を受賞 広島地区の産学官共同でITS公道実証実験を実施 国内初のリアピークルモニタリングシステムを実用化		11月	「プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」を山口県に納車
	3月	3代目「Mazda2」が「2008世界カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞 先進安全自動車「マツダASV-4」の公道走行試験を開始		12月	九州初の「プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」を岩谷産業株式会社に納車
	6月	食糧と競合しないバイオプラスチックの技術開発に、産学官連携で2013年までの実用化を目指して着手 「プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」の国土交通大臣認定を取得	2010年	1月	
	7月	「ビアンテ」新発売			
	9月	直噴エンジンの技術を活用した独自のアイドリングストップ機構「アイ・ストップ( i-stop )」を開発 出力性能と環境性能を大幅に向上させた新型クリーンディーゼルエンジンを開発 樹脂の使用量を30%削減できるプラスチック成形技術を開発			



# 製品一覧

## 乗用車

は海外販売専用車種です。それ以外は、国内仕様となります。

デミオ / Mazda2 5ドアハッチバック



3ドアハッチバック



セダン



アクセラ / Mazda3 5ドアハッチバック



セダン



ベリーサ



アテンザ / Mazda6 セダン



5ドアハッチバック



ワゴン



プレマシー / Mazda5



MPV / Mazda8



ピアンテ



## スポーツ

RX 8 / Mazda RX 8



ロードスター / Mazda MX 5





## SUV・ピックアップ

は海外販売専用車種です。それ以外は、国内仕様となります。

CX-7 / Mazda CX-7



Mazda CX-9



Mazda Tribute



Mazda BT-50



## 軽乗用車

キャロル



AZ ワゴン



スクラムワゴン



AZ オフロード



## 商用車

ボンゴバン



ボンゴトラック



ボンゴブローニイ



タイタンダッシュ



タイタン



ファミリアバン



スクラムバン



スクラムトラック



## 福祉車両

助手席リフトアップシート車

ピアンテ(その他車種: MPV)



セカンドリフトアップシート車

MPV(その他車種: ピアンテ)



スロープ式車いす移動車

AZ ワゴン i



オートステップ車

ピアンテ(その他車種: MPV)



# マツダ株式会社

発行: マツダ株式会社 広報本部

広島本社: 広島県安芸郡府中町新地3-1 〒730-8670

東京本社: 東京都千代田区内幸町1-1-7 〒100-0011

発行年月: 2010年8月

マツダコールセンター 0120-386-919

受付時間 / 月～金 9:00～17:00

土日・祝日 9:00～17:00(12:00～13:00を除く)

マツダホームページURL

<http://www.mazda.co.jp/>



zoom

